

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

令和 7 年 10 月 3 日
開設者名 国立大学法人鳥取大学
学長 原田 省

鳥取大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101
氏名	国立大学法人鳥取大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

鳥取大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地1
電話(0859)33-1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
内分泌内科及び代謝内科で提供される医療は内分泌代謝内科にて、神経内科で提供される医療は脳神経内科にて提供して							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
外科で提供される医療は外科系各診療にて、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療は乳腺内分泌外科にて提供してい							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
本院は歯科医師を有する特定機能病院である。							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	内分泌代謝内科	2	膠原病内科	3	乳腺内分泌外科	4	頭頸部外科	5	ペインクリニック外科
6	薬剤療法内科	7	形成外科	8	腫瘍内科	9	脳神経小児科	10	病理診断科
11	リハビリテーション科	12	脳神経内科	13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	2	6	0	649	697

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	332	70	382
歯科医師	12	2	13.6
薬剤師	49	0	49
保健師	0	0	0
助産師	51	0	51
看護師	865	13	873.2
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	11	0	11

職種	員数
看護補助者	63
理学療法士	21
作業療法士	9
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	22
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	41

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	55
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	13
その他の技術員	16
事務職員	321
その他の職員	46

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	42	眼科専門医	8
外科専門医	38	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	6	放射線科専門医	15
小児科専門医	33	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	12	救急科専門医	9
		合計	229

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (武中 篤) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

医療事故防止等対策委員会 委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	553.8 人	8.1 人	561.9 人
1日当たり平均外来患者数	1440.3 人	85.1 人	1525.4 人
1日当たり平均調剤数		1166	剤
必要医師数		142	人

必要歯科医師数	6	人
必要薬剤師数	19	人
必要(准)看護師数	334	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	582.6 ㎡	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	28 床	心電計	有
			人工呼吸装置		心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置		ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 188.1 ㎡		病床数	19 床		
	[移動式の場合] 台数 12 台					
医薬品情報 管理室	[専用室の場合] 床面積 28 ㎡					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	453.2 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、化学発光酵素免疫測定装置、電気化学発光免疫測定装置		
細菌検査室	97.2 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動同定感受性分析装置、血液培養装置、自動細菌同定検査装置		
病理検査室	93.3 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動固定包埋装置、自動染色機、自動免疫染色装置、凍結切片作製装置、切り出し作業台等		
病理解剖室	90 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	病理解剖台、臓器保管庫、遺体用冷蔵庫		
研究室	1061 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	中央実験台、フリーザー、ドラフトチャンバー等		
講義室	406 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	318 人
図書室	1777 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	7 室	蔵書数	70000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.4 %	逆紹介率	102.9 %
算出 根拠	A: 紹介患者の数	11957	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	18099	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2353	人
	D: 初診の患者の数	17585	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況

福田 誠司	相山女学園大学看護学部 教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者として適任であるため。	無	1
熱田 雅夫	熱田・廣澤法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者として適任であるため。	無	1
井上 俊之	NPO法人岡山SP研究会 理事		医療を受ける者で、かつ医療従事者以外であり、医療安全管理についての知識を有する者として適任であるため。	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院のホームページ及び大学のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	29
2	筋萎縮性側索硬化症	25	57	特発性拡張型心筋症	48
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	6
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	3
5	進行性核上性麻痺	36	60	再生不良性貧血	10
6	パーキンソン病	166	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	5	63	特発性血小板減少性紫斑病	27
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	73	66	IgA腎症	27
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	18
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	50	68	黄色靱帯骨化症	15
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	13	69	後縦靱帯骨化症	40
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クローウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	16
17	多系統萎縮症	15	72	下垂体性ADH分泌異常症	15
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	34	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	12
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	28	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	32
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	86
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	6
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	32	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	45
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	41
31	ベスレムミオパチー	1	86	肺動脈性肺高血圧症	11
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	12
34	神経線維腫症	26	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	12	90	網膜色素変性症	13
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	32
39	中毒性表皮壊死症	1	94	旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	
40	高安動脈炎	20	95	原発性硬化性胆管炎	2
41	巨細胞性動脈炎	4	96	自己免疫性肝炎	26
42	結節性多発動脈炎	9	97	クローン病	45
43	顕微鏡的多発血管炎	27	98	潰瘍性大腸炎	162
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	好酸球性消化管疾患	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	100	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
46	悪性関節リウマチ	5	101	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
47	パージャー病	4	102	腸管神経節細胞減少症	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	148	104	CFC症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	78	105	コストロ症候群	0
51	全身性強皮症	59	106	チャージ症候群	0
52	混合性結合組織病	24	107	クリオピリン関連周期熱症候群	0
53	シェーグレン症候群	34	108	若年性特発性関節炎	10
54	成人スチル病	11	109	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	TNF受容体関連周期性症候群	0
				非典型型溶血性尿毒症症候群	0
				ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	15
113	筋ジストロフィー	15	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	2	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	7
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	2
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	2
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シン普森症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	2

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	261	タンジール病	0
212	三尖弁閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	263	脳腫黄色腫症	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	264	無βリポタンパク血症	0
215	ファロー四徴症	3	265	脂肪萎縮症	0
216	両大血管右室起始症	1	266	家族性地中海熱	2
217	エプスタイン病	1	267	高IgD症候群	0
218	アルポート症候群	1	268	中條・西村症候群	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アク ネ症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	271	強直性脊椎炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

222	一次性ネフローゼ症候群	18	272	進行性骨化性線維異形成症	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
224	紫斑病性腎炎	3	274	骨形成不全症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4	276	軟骨無形成症	0
227	オスラー病	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
228	閉塞性細気管支炎	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
230	肺胞低換気症候群	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
232	カーニー複合	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
233	ウォルフラム症候群	0	283	後天性赤芽球癆	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	285	ファンコニ貧血	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	4	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	287	エプスタイン症候群	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
241	高チロシン血症1型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
242	高チロシン血症2型	0	292	総排泄腔外反症	0
243	高チロシン血症3型	0	293	総排泄腔遺残	0
244	メープルシロップ尿症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
245	プロピオン酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
246	メチルマロン酸血症	0	296	胆道閉鎖症	0
247	イソ吉草酸血症	0	297	アラジール症候群	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	298	遺伝性膀胱炎	0
249	グルタル酸血症1型	0	299	嚢胞性線維症	0
250	グルタル酸血症2型	0	300	IgG4関連疾患	6
251	尿素サイクル異常症	0	301	黄斑ジストロフィー	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	303	アッシュャー症候群	0
254	ポルフィリン症	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
256	筋型糖原病	0	306	好酸球性副鼻腔炎	41
257	肝型糖原病	0	307	カナバン病	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	308	進行性白質脳症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
260	システロール血症	0	310	先天異常症候群	0
	疾患名	患者数			
311	先天性三尖弁狭窄症	0			
312	先天性僧帽弁狭窄症	0			
313	先天性肺静脈狭窄症	0			
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0			
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0			
316	カルニチン回路異常症	0			
317	三頭酵素欠損症	0			
318	シトリン欠損症	0			
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0			
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0			
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0			
322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0			
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0			
324	メチルグルタコン酸尿症	0			
325	遺伝性自己炎症疾患	0			
326	大理石骨病	0			
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0			
328	前眼部形成異常	0			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

329	無虹彩症	0
330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
331	特発性多中心性キャッスルマン病	5
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0
335	ネフロン癆	0
336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
337	ホモシステニン尿症	0
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	124
合計患者数(人)	2006

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・報告書管理体制加算
・医療DX推進体制整備加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・呼吸ケアチーム加算
・特定機能病院入院基本料	・術後疼痛管理チーム加算
・救急医療管理加算	・後発医薬品使用体制加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1	・データ提出加算
・急性期看護補助体制加算	・入退院支援加算
・看護職員夜間配置加算	・医療的ケア児(者)入院前支援加算
・療養環境加算	・認知症ケア加算
・精神疾患診療体制加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	療養環境加算(多床室)は削除
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算2	・排尿自立支援加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・精神病棟入院時医学管理加算	・救命救急入院料3
・精神科身体合併症管理加算	・救命救急入院料4
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・特定集中治療室管理料3
・栄養サポートチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・感染対策向上加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・患者サポート体制充実加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症患者初期支援充実加算	・小児入院医療管理料1
・歯科外来診療感染対策加算4	・児童・思春期精神科入院医療管理料
・バイオ後続品使用体制加算	・短期滞在手術等基本料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・経頸静脈的肝生検
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・ストーマ合併症加算
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)
・糖尿病合併症管理料	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者指導管理料イ	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・がん患者指導管理料ロ	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
・がん患者指導管理料ハ	・角膜移植術(内皮移植加算)
・がん患者指導管理料ニ	・羊膜移植術
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・糖尿病透析予防指導管理料	・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
・小児運動器疾患指導管理料	・人工中耳植込術
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・婦人科特定疾患治療管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・一般不妊治療管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・腎代替療法指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生殖補助医療管理料2	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・二次性骨折予防継続管理料1	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・二次性骨折予防継続管理料3	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・下肢創傷処置管理料	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・院内トリアージ実施料	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・外来放射線照射診療料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・外来腫瘍化学療法診療料1	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・連携充実加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)

・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ニコチン依存症管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・プログラム医療機器等指導管理料	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・薬剤管理指導料	・内視鏡下筋層切開術
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・医療機器安全管理料1	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医療機器安全管理料2	・胸腔鏡下弁形成術
・医療機器安全管理料(歯科)	・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・精神科退院時共同指導料1及び2	・胸腔鏡下弁置換術
・歯科治療時医療管理料	・胸腔鏡下弁置換術((内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的冠動脈弁置換術)
・在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・経皮的僧帽弁クリップ術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・救急患者連携搬送料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・遺伝学的検査	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・骨髄微小残存病変量測定	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・BRCA1/2遺伝子検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・先天性代謝異常症検査	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・補助人工心臓

・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・遺伝カウンセリング加算	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・ヘッドアップティルト試験	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・人工臓器検査、人工臓器療法	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・体外衝撃波胆石破砕術
・終夜睡眠ポリグラフィ(安全精度管理下で行うもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・脳波検査判断料1	・体外衝撃波膵石破砕術
・単繊維筋電図	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・神経学的検査	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・コンタクトレンズ検査料1	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・画像診断管理加算1	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・同種死体腎移植術
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・生体腎移植術
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピュータ断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術

・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・冠動脈CT撮影加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・外来化学療法加算1	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・無菌製剤処理料	・体外式膜型人工肺管理料
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・輸血管管理料Ⅰ
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・コーディネート体制充実加算
・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算1	・同種クリオプレシピレート作製術
・がん患者リハビリテーション料	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・リンパ浮腫複合的治療料	・歯周組織再生誘導手術
・経頭蓋磁気刺激療法	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・麻酔管理料(Ⅰ)
・療養生活継続支援加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・精神科作業療法	・周術期薬剤管理加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・放射線治療専任加算
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・外来放射線治療加算
・医療保護入院等診療料	・高エネルギー放射線治療
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・一回線量増加加算
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・人工腎臓	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・定位放射線治療
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・磁気による膀胱等刺激法	・画像誘導密封小線源治療加算
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・歯科技工加算1及び2	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・病理診断管理加算2

・自家脂肪注入	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・口腔病理診断管理加算2
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・歯科矯正診断料
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・椎間板内酵素注入療法	・経皮的下肢動脈形成術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・歯科技工士連携加算2
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・緊急穿頭血腫除去術
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・精巣温存手術
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・看護職員処遇改善評価料66	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・自己生体組織接着剤作成術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)
・光学印象歯科技工士連携加算	・地域連携診療計画加算
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・染色体検査 注2絨毛染色体検査
・尿道狭窄グラフト再建術	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍(胆嚢床切除を伴うもの)
・入院ベースアップ評価料72	・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
炎症標的新規抗うつ薬の患者最適化を目的とした臨床開発	岩田 正明	精神行動医学	4,600,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
体外培養したラット着床前胚におけるグルコース輸送とアポトーシスの関連	中村 和臣	新規医療研究推進センター	1,300,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
成長軟骨帯のSTC-PAPP-IGFBP-IGF axis制御機構解明から成長障害の新規治療を目指す	難波 範行	周産期・小児医学	1,100,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
RNA編集酵素ADAR1に着目した腫瘍微小環境におけるマクロファージM2誘導機構の解明	木原 恭一	第一外科診療科群	1,600,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪細胞由来幹細胞exosomeを用いた大動脈瘤拡大進展抑制に関する研究	岸本 祐一郎	心臓血管外科学	1,300,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
前眼部写真に基づく感染性角膜炎診断のためのAI支援システムの開発	宮崎 大	視覚病態学	1,800,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
涙液中の細胞外小胞を用いた未熟児網膜症の新しい診断ツールの開発	馬場 高志	眼科	1,000,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
機械学習による褥瘡診断モデルの構築とDESIGN-R判定アプリの開発に関する研究	八木 俊路朗	形成外科	1,500,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
尿道内可視化による安全な膀胱留置カテーテル設置方法の確立	森實 修一	泌尿器科	1,600,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺線維化におけるアンチセンス長鎖ノンコーディングRNA“PRDX6-AS1”の機能解析	高田 美樹	第三内科診療科群	1,400,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
血清vtRNA1-1は造血能を反映するバイオマーカーとなりうるか	畑山 祐輝	検査部	800,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
炎症をターゲットとした自閉スペクトラム症の病態解析	梶谷 直史	精神行動医学	1,700,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
BSEEGスコアを用いてせん妄モデル動物の評価系を確立する	山梨 豪彦	精神行動医学	1,900,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃癌における制御性B細胞とSTING経路の関連の検討	村上 裕樹	第一外科診療科群	1,100,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業
TDMによる睡眠薬適正使用推進と薬局での臨床応用を目指した基盤構築	藤吉 正哉	薬剤部	700,000	補助 日本学術振興会 科学研究費助成事業

パーキンソン症候群におけるChromogranin Bなどバイオマーカー臨床応用	瀧川 洋史	脳神経内科学	900,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
血液中の自己抗体を用いた難治性内分泌腫瘍の新規悪性度判定法開発	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	1,100,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
エクソソーム解析によるインスリン抵抗性の分子病態の解明	大倉 毅	循環器・内分泌代謝内科学	400,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
機械学習を用いた頭頸部癌術後放射線治療におけるリンパ領域自動描出法の確立	吉田 賢史	放射線治療科	900,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規チロシンキナーゼ受容体による膀胱癌の薬剤治療抵抗性メカニズムの解明と治療応用	山本 学	第一外科診療科群	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
キチンナノファイバーのTGF- β /Smad経路を介した肝切除後胆汁漏予防効果の検討	徳安 成郎	第一外科診療科群	1,100,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
微小管ダイナミクスに着目した食道癌の新規治療法開発	藤原 義之	消化器・小児外科学	700,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃癌腹膜転移の治療抵抗性に関与するメカニズムの解明	松永 知之	消化器・小児外科学	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪細胞由来幹細胞exosomeを用いた新規cell-free心筋再生療法の開発	吉川 泰司	心臓血管外科学	900,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺高悪性度神経内分泌癌の分子標的治療と免疫療法による新規治療開発と耐性機序の解析	春木 朋広	胸部外科診療科群	800,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
呼気窒素酸化物計測の侵襲時のモニタリングとしての有用性と早期介入への応用	船木 一美	手術部	1,400,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
変形性関節症の組織学的病態解明に基づく血管新生阻害薬の開発	柳楽 慶太	整形外科	700,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎癌の術後補助療法に関する患者選別のバイオマーカーとなるmicroRNAの同定	岩本 秀人	腎泌尿器学	1,400,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
膜融合性リポソームを用いたSKチャンネル開口薬膀胱内注入の確立	本田 正史	腎泌尿器学	1,100,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
血液腫瘍診療の連続性向上のための適切な医師間連携ツールの研究開発	今岡 慎太郎	地域医療学	1,410,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
文化人類学の知見を活かした総合診療専門医の教育方法の構築	谷口 晋一	地域医療学	1,100,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業

医療と教育をつなぐ算数障害診断評価ツールおよびトレーニングアプリの開発	大羽 沢子	ワークライフバランス支援センター	800,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Patch-seqを用いた包括的解析によるiPS細胞由来心筋の解析	白吉 安昭	脳神経内科学	1,300,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
うつが心不全を重症化する分子機序を解明し心不全治療戦略の再構築を目指す探索的研究	山本 一博	循環器・内分泌代謝内科学	1,200,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬抵抗性の克服	木下 直樹	第三内科診療科群	1,400,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎特異的糖タンパク「ウロモジュリン」による糖尿病性腎症抑制	高田 知朗	第二内科診療科群	1,200,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
IFALDにおけるKupffer細胞/xCT関連病態の解明と分子標的治療に関する探索	長谷川 利路	小児外科	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
染色体工学技術と次世代シーケンス解析の融合による膵がんの新規がん抑制経路の同定	坂野 悠	第一外科診療科群	1,100,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
膵癌に対するがん治療用ウイルスを用いた革新的治療法の開発	坂本 照尚	消化器・小児外科学	1,700,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
消化器癌における制御性B細胞とアデニン産生酵素の発現および分化誘導因子の検討	岸野 幹也	第一外科診療科群	1,100,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
高侵襲暴露後の脳内炎症におけるオピオイド鎮痛薬の影響	大槻 明広	麻酔・集中治療医学	1,300,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症熱傷における神経筋連環の解明	北川 良憲	麻酔診療科群	1,300,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
C6グリオーマ脳内移植モデルによる次世代ワクシニア腫瘍溶解ウイルスの治療効果の検討	神部 敦司	脳神経外科	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
人工知能(AI)によるアレルギー性結膜疾患診断支援システムの戦略的開発	佐々木 慎一	眼科	500,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
若年者ピロリ検診の実装化とピロリ胃炎進展メカニズムの解明	八島 一夫	消化器・腎臓内科学	600,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
先進的データサイエンス技術を用いた臨床試験共有システムからの先進的エビデンス創出	砂田 寛司	新規医療研究推進センター	800,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
センダイウイルスによる可逆的不死化卵巣癌細胞株の樹立と性状解析	小松 宏彰	女性診療科群	200,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業

免疫チェックポイント阻害薬によるirAEの発症予測および診断のバイオマーカー探索	矢内 正品	がんセンター	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病性腎症における新しい非侵襲的な蛍光検査手法の確立	井山 拓治	腎センター	500,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
筋質はCKD患者の予後規定因子となるか？	前 ゆかり	高次集中治療部	800,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
HSPによる心臓eNOS活性化の分子解明と薬理的プレコンディショニングの開発	湊 弘之	麻酔・集中治療医学	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
キチンナノファイバーを用いた脊髄損傷治療	三原 徳満	整形外科	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Alzheimer型認知症の機能性排尿障害における中枢性アンジオテンシンⅡの関与	川本 文弥	腎泌尿学	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
PHD阻害剤を用いたがん微小環境の改善による頭頸部癌新規治療戦略の開発	小山 哲史	頭頸部診療科群	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
薬剤関連顎骨壊死における新規細胞医薬治療戦略	奈良井 節	口腔顎顔面外科学	1,300,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
口腔扁平上皮癌患者の不良予後に関与するMaspinの分子機構の解明	川崎 誠	口腔顎顔面外科学	1,500,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃癌腹膜播種腹水中エクソソーム内包microRNAが抗癌剤薬剤耐性を誘導するか	宮谷 幸造	第一外科診療科群	1,200,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳梗塞患者に対するICTツールを用いた啓発・相談体制構築の効果	河瀬 真也	脳神経内科学	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
5-アミノレブリン酸によるがん悪液質改善効果の検討	河野 友輔	第一外科診療科群	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
同時性多発胃癌に対する光線力学的内視鏡イメージングの有用性と分子基盤の探索的研究	菓 裕貴	第二内科診療科群	400,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
内視鏡的筋層切開術を用いた食道アカラシアのHLAリスク因子、および微生物の検索	坂口 琢紀	第二内科診療科群	1,000,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
I型古典的樹状細胞は多発性骨髄腫の進行を促進する	鈴木 さやか	血液内科・臨床検査医学	500,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
難治性癌における新たな悪性度・薬剤耐性に関するメカニズムの解明と新規治療薬の開発	宍戸 裕二	高次集中治療部	600,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業

膵癌Exosomal Tyro3を介した内皮間葉転換と膵癌進展機構の解明	花木 武彦	医学部	1,300,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
線維柱帯における眼圧感知メカニズムの追求	三宅 瞳	眼科	900,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
涙液エクソソーム解析による非侵襲的未熟児網膜症スクリーニング手法の確立	魚谷 竜	視覚病態学	900,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
包括的運動機能評価による人工関節置換術後のロコモティブシンドローム進行要因の解明	橋田 勇紀	リハビリテーション部	200,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸炎における活性イオウの機能解明	神田 努	消化器・腎臓内科学	1,300,000	補助	日本学術振興会 科学研究費助成事業
我が国における心血管疾患の回復期および維持期の診療の現状と課題	山本 一博	循環器・内分泌代謝内科学	10,000,000	補助	厚生労働省__循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
医療施設のオール・ハザード型の事業継続計画(BCP)構築に向けた体制確立のための研究	本間 正人	救急・災害医学	4,800,000	補助	厚生労働省__厚生労働科学特別研究事業
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	花島 律子	脳神経内科学	600,000	補助	厚生労働省__難治性疾患政策研究事業
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	花島 律子	脳神経内科学	700,000	補助	厚生労働省__難治性疾患政策研究事業
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者QOL向上のための研究	吉田 雄一	皮膚科学	1,000,000	補助	厚生労働省__難治性疾患政策研究事業
先天性骨系統疾患の医療水準と患者QOLの向上を目的とした研究	難波 範行	周産期・小児医学	500,000	補助	厚生労働省__難治性疾患政策研究事業
ホルモン分泌・受容障害に関わる難病の調査研究	難波 範行	周産期・小児医学	650,000	補助	厚生労働省__難治性疾患政策研究事業
女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究	谷口 文紀	産科婦人科学	100,000	補助	厚生労働省__女性の健康の包括的支援政策研究事業
月経随伴症状に関連した健康課題の公衆衛生的分析とその解決に向けた包括的研究	谷口 文紀	産科婦人科学	300,000	補助	厚生労働省__女性の健康の包括的支援政策研究事業
小児急性脳症の診療向上・ガイドライン策定に向けた体制整備	前垣 義弘	脳神経小児科学	500,000	補助	厚生労働省__難治性疾患政策研究事業
大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究	本間 正人	救急・災害医学	300,000	補助	厚生労働省__地域医療基盤開発推進研究事業

こどもの健やかな成長・発達のためのバイオサイコソーシャルの観点(身体的・精神的・社会的な観点)からの切れ目のない支援の推進のための研究	前垣 義弘	脳神経小児科学	500,000	補助	厚生労働省__成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
小児肝癌に対する国際共同臨床試験	奥野 啓介	小児科	0	委託	国立大学法人広島大学__受託研究費
動脈硬化性の急性頭蓋内主幹動脈閉塞に対する血管内治療に関する後ろ向き登録調査	坂本 誠	脳神経外科学	0	委託	兵庫医科大学__受託研究費
難治性副腎疾患多施設共同レジストリを活用したエビデンス創出と我が国の診療の均てん化	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	300,000	委託	国立研究開発法人国立国際医療研究センター__受託研究費
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	大倉 毅	第一内科診療科群	300,000	委託	国立研究開発法人国立国際医療研究センター__受託研究費
周産期型および乳児型低ホスファターゼ症の病勢を反映する臨床的マーカーの探索	難波 範行	周産期・小児医学	110,000	委託	国立大学法人大阪大学__受託研究費
間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	森田 正人	第三内科診療科群	16,000	委託	国立大学法人東海国立大学機構(名古屋大学)__受託研究費
術前化学療法で病理学的完全奏功とならなかったトリプルネガティブ乳癌に対する術後カルボプラチン単独治療の第3相ランダム化比較試験	若原 誠	胸部外科診療科群	13,000	委託	国立大学法人神戸大学__受託研究費
右心機能障害を合併した左室駆出率の保たれた心不全症例に対するピモベンダンの運動耐容にもたらす効果に関する研究-多施設前向き二重盲検プラセボコントロール無作為化比較介入研究-	山本 一博	循環器・内分泌代謝内科学	118,000	委託	国立大学法人大阪大学__受託研究費
国産手術支援ロボットhinotoriを用いた根治的前立腺全摘除術の前向き観察研究	武中 篤	泌尿器科	715,000	委託	国立大学法人神戸大学__受託研究費
pStage II 大腸癌に対するOSNA法によるリンパ節微小転移診断意義の検討	木原 恭一	第一外科診療科群	62,700	委託	特定非営利活動法人臨床試験支援センター__受託研究費
未治療日本人転移性腎細胞癌患者を対象としたカボザンチニブ・ニボルマブ併用療法の有効性と安全性に関する前向き観察研究	武中 篤	腎泌尿器学	154,000	委託	一般社団法人九州臨床研究支援センター__受託研究費
先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究	美野 陽一	周産期・小児医学	10,000	委託	国立大学法人東京科学大学__受託研究費
70歳以上のEpidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するオンメルチニブの至適投与量に関する多施設共同研究(研究略名: MONEY、研究番号: CSPOR-IC09)	阪本 智宏	第三内科診療科群	22,000	委託	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター__受託研究費

乾癬患者を対象とした予後、合併症、治療に関する観察研究	吉田 雄一	皮膚科学	188,100	委託	NPO法人西日本炎症性皮膚疾患研究会__受託研究費
フローダイバーター留置術周術期抗血小板療法期間に関する多施設共同ランダム化比較試験	坂本 誠	脳神経外科学	66,000	委託	国立大学法人東海国立大学機構(岐阜大学)__受託研究費
炎症性腸疾患患者に対するコルヒチン投与の有効性及び安全性を評価する多機関共同探索的臨床研究	磯本 一	消化器・腎臓内科学	94,185	委託	北海道公立大学法人札幌医科大学__受託研究費
HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法における多遺伝子アッセイを使用した観察研究	細谷 恵子	胸部外科診療科群	11,000	委託	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター__受託研究費
進行卵巣癌患者を対象とした葉酸受容体α(FRα)のバイオマーカー発現頻度を明らかにする多施設共同研究	佐藤 慎也	女性診療科群	30,000	委託	特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構__受託研究費
希少難病「網膜色素変性」の失明患者に対する光電変換色素薄膜型人工網膜OUREP植込み手術の探索的医師主導治験	亀山 克朗	神経科学	7,000,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費
小児のウイルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究(小児C型慢性肝炎に対するDAA治療に関する研究)	倉信 奈緒美	小児科	200,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究(中国地区における未診断疾患に対する診断ならびに患者還元体制の推進に関する研究)	栗野 宏之	脳神経小児科	6,000,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費
膵癌ハイリスク群を対象とした「胃カメラしながら膵がん検診」の社会実装に向けた前向き追跡研究(対象者の登録と検査)	磯本 一	消化器・腎臓内科学	500,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費
十二指腸洗浄回収液を用いた膵管内乳頭粘液性腫瘍の精密ゲノム悪性度診断(対象者の登録と検査)	磯本 一	消化器・腎臓内科学	500,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費
前眼部疾患AI診断支援システムに関する研究開発(スマートフォンなど非医療機器画像への適応)	宮崎 大	視覚病態学	250,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費
ヒト抗ULBP2抗体による新しいがん免疫治療	山口 耕介	呼吸器・膠原病内科学	2,000,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費
マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現(βヒドロキシ酪酸(BHB)薬事承認)	岩田 正明	精神行動医学	3,000,000	委託	国立研究開発法人日本医療研究開発機構__受託研究費

合計件数	106
合計金額	116,819,985

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kumagai K, Kishimoto Y, Onohara T, et al	心臓血管外科	Ruptured Huge Complex Aortic Arch Aneurysm Associated With Aortic Coarctation.	Circ J. 2024 Oct 25 ; 88(11):1863.	Original Article
2	Takasu Y, Moriya K, Kuroda T, et al	心臓血管外科	Recurrent Refractory Non-Dupuytren Contracture in Females After Limited Fasciectomy.	Cureus. 2024 Dec 2 ; 16(12):e74956. (オンライン)	Case Report
3	Ikuta K, Fukuoka K, Kimura Y, et al	整形外科	An ingenious deep learning approach for pressure injury depth evaluation with limited data.	J Tissue Viability. 2024 Aug ; 33(3):387-392.	Original Article
4	Kitagawa Y, Yoshida K, Takeuchi Y, et al	形成外科	Comparison of the Survivals and Adverse Events for Localized High-Risk Prostate Cancer Treated with Intensity-Modulated Radiotherapy Plus Androgen Deprivation and Trimodality Therapy, Including Low-Dose Iodine-125 Brachytherapy and External Beam Radiothe	Yonago Acta Med. 2025 Jan 6 ; 68(1):12-21. (オンライン)	Original Article
5	Arai Y, Kadekaru R, Okanishi T, et al	脳神経内科	Assessing the Subjective Happiness of Parents of Children With Severe Motor and Intellectual Disabilities Receiving Home Care.	Cureus. 2024 Jul 15 ; 16(7):e64562. (オンライン)	Original Article
6	Hosoda R, Hashimoto Y, Hara K, et al	血液内科	Disappearance of a chromosomal abnormality in a young patient with polycythemia vera treated with ropeginterferon alfa-2b.	Ann Hematol. 2024 Sep ; 103(9):3825-3827.	Case Report
7	Hatayama Y, Shimohiro H, Hashimoto Y, et al	検査部	Serum vault RNA1-1 levels reflect blood cells and bone marrow.	Mol Cell Probes. 2025 Apr ; 80:102018.	Original Article
8	Iwata N, Sakamoto M, Sakou T, et al	放射線部	Image Follow-Up After Flow Diverter Treatment Using Only Ultra-High Resolution CT Angiography with Model-Based Iterative Reconstruction: A Case Report.	Yonago Acta Med. 2024 Jul 29 ; 67(3):254-258. (オンライン)	Case Report
9	Wada T, Kitsuda Y, Tanishima S, et al	リハビリテーション科	Association between lumbar spine kinematics and falls in patients with lumbar spinal stenosis: a cross-sectional study.	Eur Spine J. 2025 Apr ; 34(4):1562-1568.	Original Article
10	Adachi M, Kumagai T, Hoshio K, et al	薬剤部	Exploring Acute Liver Damage: Slimming Health Foods and CYP3A4 Induction.	Yonago Acta Med. 2024 May 24 ; 67(2):124-134. (オンライン)	Original Article
11	Fujii S, Mukuda N, Yunaga H, et al	放射線科	MR imaging findings of massive pervillous fibrin deposition of the placenta: A case report.	Radiol Case Rep. 2024 Apr 24 ; 19(7):2797-2800. (オンライン)	Case Report
12	Yamaji D, Gonda T, Mukuda N, et al	放射線科	Prenatal magnetic resonance imaging of umbilical cord ulcer in a fetus with congenital small bowel atresia: A case report.	Radiol Case Rep. 2024 Nov 22 ; 20(2):916-919. (オンライン)	Case Report
13	Fujii S, Inoue C, Yunaga H, et al	放射線科	MR imaging findings of primary ovarian carcinoïd: A novel finding of T1 hyperintense solid tissue.	Radiol Case Rep. 2024 Apr 24 ; 19(7):2816-2819. (オンライン)	Case Report
14	Yunaga H, Miyoshi H, Ochiai R, et al	放射線科	Image Quality and Lesion Detection of Multiplanar Reconstruction Images Using Deep Learning: Comparison with Hybrid Iterative Reconstruction.	Yonago Acta Med. 2024 Apr 22 ; 67(2):100-107. (オンライン)	Original Article
15	Suzuki S, Komiya K, Tsuda S, et al	血液内科	Type I-conventional dendritic cells support the progression of multiple myeloma in the bone marrow.	Front Immunol. 2024 Oct 15 ; 15:1444821. (オンライン)	Original Article
16	Kato M, Kawatani S, Tomomori T, et al	循環器内科	Usefulness of Apple Watch Electrocardiograms for Identifying the Origin of Premature Ventricular Contractions.	Circ J. 2025 Jan 24 ; 89(2):251-254.	Original Article

17	Kotake Y, Hirano F, Kawatani S, et al	循環器内科	Impact of atrial functional substrate in patients with atrial fibrillation: The potential utility of decremental evoked potential mapping in the atrium.	Heart Rhythm O2. 2024 Nov 22 ; 6(2):159-165. (オンライン)	Original Article
18	Kinugasa Y, Nakamura K, Hirai M, et al	循環器内科	Association of a Transitional Heart Failure Management Program With Readmission and End-of-Life Care in Rural Japan.	Circ Rep. 2024 Apr 20 ; 6(5):168-177. (オンライン)	Original Article
19	Okura T, Ito Y, Anno M, et al	循環器内科	Postprandial fatty acid-binding proteinA?4 is associated with muscle insulin resistance.	Diabetologia. 2024 Oct ; 67(10):2304-2315.	Original Article
20	Nakamura K, Kinugasa Y, Sota T, et al	循環器内科	The water imbalance of skeletal muscle and muscle weakness in patients with heart failure.	ESC Heart Fail. 2024 Dec ; 11(6):3757-3766.	Original Article
21	Yamamoto K	循環器内科	The Impact of Cardiovascular Disease Is Different Even Within Southeast Asia.	JACC Asia. 2024 Aug 6 ; 4(8):634-635. (オンライン)	Original Article
22	Kinugasa Y, Nakamura K, Hirai M, et al	循環器内科	Regional Collaboration for Heart Failure Patients Certified as Needing Support or Care in Long-Term Care Insurance System.	Circ J. 2024 Dec 25 ; 89(1):109-119.	Original Article
23	Nakamura R, Ohkura T, Kitao S, et al	循環器内科	Pregestational BMI Over 23 kg/m2 May Increase Insulin Utilization in Gestational Diabetes Mellitus Patients.	Cureus. 2024 Dec 12 ; 16(12):e75612. (オンライン)	Original Article
24	Amisaki R, Watanabe T, Kobara S, et al	循環器内科	Effectiveness of the repeated 3-time-balloon-inflation method in reducing coronary stent edge dissection.	Heart Vessels. 2024 Dec 24.	Original Article
25	Sakamoto Y, Takeda Y, Yamashita T, et al	消化器内科	Comparative Study of Endoscopic Treatment for Intrahepatic and Common Bile Duct Stones Using Peroral Cholangioscopy.	J Clin Med. 2024 Sep 12 ; 13(18):5422. (オンライン)	Original Article
26	Kurumi H, Yokoyama Y, Hirano T, et al	消化器内科	Cytokine Profile in Predicting the Effectiveness of Advanced Therapy for Ulcerative Colitis: A Narrative Review.	Biomedicines. 2024 Apr 25 ; 12(5):952. (オンライン)	Original Article
27	Sugihara T, Nagahara T, Kihara T, et al	消化器内科	Characterization and Detection Strategy Exploration in Cryptogenic Hepatocellular Carcinoma: Insights From a Super-Aged Region in Japan.	Cancer Med. 2025 Jan ; 14(2):e70490.	Original Article
28	Taniguchi S, Takata T, Mae Y, et al	消化器内科	Managing Dosage Adjustments in Pseudo-Hypocreatinemia: Insights from Vancomycin-Induced Nephrotoxicity in a Sarcopenic Patient.	Yonago Acta Med. 2024 Oct 23 ; 67(4):358-362. (オンライン)	Case Report
29	Kanda T, Saiki K, Kurumi H, et al	消化器内科	Docking Proteins Upregulate IL-112 Expression in Lower Esophageal Sphincter Muscle in Esophageal Achalasia.	J Clin Med. 2024 May 20 ; 13(10):3004. (オンライン)	Original Article
30	Yamamoto M, Takata T, Hanada H, et al	消化器内科	Zinc deficiency induces hypertension by paradoxically amplifying salt sensitivity under high salt intake in mice.	Clin Exp Nephrol. 2024 Aug ; 28(8):728-739.	Original Article
31	Takata T, Taniguchi S, Mae Y, et al	消化器内科	Comparative assessment of the effects of dotinurad and febusostat on the renal function in chronic kidney disease patients with hyperuricemia.	Sci Rep. 2025 Mar 15 ; 15(1):8990. (オンライン)	Original Article
32	Yashima K, Kurumi H, Yamaguchi N, et al	消化器内科	Progressing advanced therapies for inflammatory bowel disease: Current status including dual biologic therapy and discontinuation of biologics.	Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2025 Feb 24:1-20.	Original Article
33	Mae Y, Takata T, Taniguchi S, et al	消化器内科	Selective peroxisome proliferator-activated receptor-1± modulator improves hypertriglyceridemia and muscle quality in patients with chronic kidney disease: A retrospective observational study.	Clin Nutr ESPEN. 2025 Feb ; 65:182-188.	Original Article

34	Harada T, Uetani N, Inui G, et al	呼吸器内科	Pembrolizumab-induced asthma exacerbation with hypereosinophilia and elevated interleukin-5 in endometrial cancer: A case report.	Respir Med Case Rep. 2024 Apr 30 ; 49:102035. (オンライン)	Case Report
35	Okazaki R, Harada T, Funaki Y, et al	呼吸器内科	Efficacy, Safety, and Continuation of Biological Therapy in Older Patients with Asthma in a Real-World Setting: A Retrospective Observational Study.	Yonago Acta Med. 2024 Apr 22 ; 67(2):114-123. (オンライン)	Original Article
36	Yamasaki A, Tomita K, Inui G, et al	呼吸器内科	Differences in the effectiveness of single, dual, and triple inhaled corticosteroid therapy for reducing future risk of severe asthma exacerbation: A systematic review and network meta-analysis.	Heliyon. 2024 May 16 ; 10(12):e31186. (オンライン)	Original Article
37	Harada T, Inui G, Takata M, et al	呼吸器内科	Recent Advances and New Therapeutic Goals in the Management of Severe Asthma.	Intern Med. 2025 Jan 15.	Original Article
38	Sakamoto T, Yamane K, Teruya Y, et al	呼吸器内科	A Case of Pleuritis Associated With Antineutrophil Cytoplasmic Antibody (ANCA)-Associated Vasculitis Diagnosed Through Medical Thoracoscopy.	Cureus. 2024 Sep 21 ; 16(9):e69827. (オンライン)	Case Report
39	Okazaki R, Inui G, Funaki Y, et al	呼吸器内科	Systemic sclerosis complicated by azathioprine-induced iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorder: A case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2025 Mar 6:rxaf017.	Original Article
40	Okazaki R, Arita S, Hoshio H, et al	呼吸器内科	Allergic bronchopulmonary mycosis caused by <i>Scedosporium apiospermum</i> : A case report.	Respir Med Case Rep. 2024 Aug 22 ; 51:102092. (オンライン)	Case Report
41	Yanai M, Sakamoto T, Nonaka T, et al	呼吸器内科	Pseudo-hyperprogression of Malignant Pleural Mesothelioma Treated with Nivolumab: A Case Report.	Intern Med. 2025 Feb 8.	Original Article
42	Yanai M, Sakamoto T, Uetani N, et al	呼吸器内科	Successful Switch to Afatinib and Osimertinib Rechallenge with Corticosteroids after Osimertinib-induced Interstitial Lung Disease: A Case Report and Literature Review.	Intern Med. 2025 Feb 1.	Original Article
43	Mino Y, Miyahara F, Miura M, et al	小児科	Risk of Transient Tachypnea of the Newborn following Elective Cesarean Section Increases at a Gestational Age of 37 Weeks Compared to That at a 38 Weeks Despite the Exclusion of Pre-Existing Risk Factors for Neonatal Respiratory Disorders.	Yonago Acta Med. 2024 May 11 ; 67(2):150-156. (オンライン)	Original Article
44	Namba N, Ito N, Michigami T, et al	小児科	Impact of X-linked hypophosphatemic rickets/osteomalacia on health and quality of life: baseline data from the SUNFLOWER longitudinal, observational cohort study.	JBMR Plus. 2024 Sep 10 ; 8(11):ziae118. (オンライン)	Original Article
45	Kakee S, Kanai K, Tsuneki-Tokunaga A, et al	小児科	Difference in TMPRSS2 usage by Delta and Omicron variants of SARS-CoV-2: Implication for a sudden increase among children.	PLoS One. 2024 Jun 13 ; 19(6):e0299445. (オンライン)	Original Article
46	Sakamoto T, Kishino M, Murakami Y, et al	消化器外科	The cachexia index is a prognostic factor for patients with recurrent pancreatic cancer.	Surg Today. 2024 Dec ; 54(12):1498-1504.	Original Article

47	Sakamoto T, Kishino M, Murakami Y, et al	消化器外科	Correlation between relative dose intensity of adjuvant S-1 chemotherapy and psoas muscle mass volume and survival after resection of pancreatic ductal adenocarcinoma: A retrospective study.	Medicine (Baltimore). 2024 May 24 ; 103(21):e38292.	Original Article
48	Makinoya M, Miyatani K, Matsumi Y, et al	消化器外科	Exosomal miR-493 suppresses MAD2L1 and induces chemoresistance to intraperitoneal paclitaxel therapy in gastric cancer patients with peritoneal metastasis.	Sci Rep. 2024 May 2 ; 14(1):10075. (オンライン)	Original Article
49	Matsunaga T, Saito H, Osaki T, et al	消化器外科	Using the geriatric nutritional risk index to predict outcomes in older patients with remnant gastric cancer after gastrectomy: a retrospective multicenter study in Japan.	Surg Today. 2024 Nov ; 54(11):1360-1368.	Original Article
50	Takahashi T, Matsunaga T, Shimizu S, et al	消化器外科	Spontaneous Mediastinal Gastric Perforation in Hiatal Hernia with Difficult Surgical Technique Selection: A Case Report.	Yonago Acta Med. 2024 Jul 31 ; 67(3):259-265. (オンライン)	Case Report
51	Shimizu S, Matsunaga T, Saito H, et al	消化器外科	Impact of Lymphocyte/Monocyte Ratio on Outcomes in Patients with Remnant Gastric Cancer After Gastrectomy.	Yonago Acta Med. 2024 Nov 15 ; 67(4):314-320. (オンライン)	Original Article
52	Yagyu T, Yamamoto M, Yasui C, et al	消化器外科	Laparoscopic Repair of Internal Hernia at the Pelvic Floor After Low Anterior Resection: A Case Report.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec ; 18(1):e70016.	Case Report
53	Shimizu S, Matsunaga T, Takahashi T, et al	消化器外科	Finding the Right Hepatic Artery Branching from the Gastroduodenal Artery in a Patient Undergoing Gastrectomy: A Rare Case of an Anatomical Variant.	Yonago Acta Med. 2024 Sep 15 ; 67(4):355-357. (オンライン)	Case Report
54	Yasui C, Kono Y, Ishiguro R, et al	消化器外科	New Treatment Modalities for Colorectal Cancer Through Simultaneous Suppression of FSP1 and GPX4.	Anticancer Res. 2024 Nov ; 44(11):4905-4914.	Original Article
55	Sakamoto T, Kishino M, Murakami Y, et al	消化器外科	Prognostic Relationship Between the Cachexia Index and Osteopenia in Patients With Pancreatic Cancer.	Anticancer Res. 2025 Mar ; 45(3):1225-1231.	Original Article
56	Haruki T, Yamamoto H, Hoshikawa Y, et al	呼吸器外科	Clinicopathological features and perioperative outcomes of robot-assisted thoracoscopic surgery for primary lung cancer: An analysis of initial outcomes based on the National Clinical Database.	Surg Today. 2025 Feb 7.	Original Article
57	Miyamoto T, Haruki T, Makishima K, et al	呼吸器外科	The prognostic implications of podoplanin in cancer-associated fibroblasts and PD-L1 expression in high-grade neuroendocrine carcinoma of the lung.	Thorac Cancer. 2024 Dec ; 15(36):2519-2529.	Original Article
58	Yamane H, Morizane S, Honda M, et al	泌尿器科	Preoperative risk stratification models after radical cystectomy for bladder cancer: A multi-center study.	Int J Urol. 2024 Nov ; 31(11):1278-1287.	Original Article
59	Morizane S, Hussein AA, Yamane H, et al	泌尿器科	Initial Experience and Surgical Setup of Robot-Assisted Nephroureterectomy Using the Hugo Robot-Assisted Surgery System.	J Endourol. 2024 Oct ; 38(10):1004-1012.	Original Article
60	Nishikawa R, Morizane S, Yamamoto A, et al	泌尿器科	Effects of perirenal fat thickness on postoperative renal dysfunction in patients who underwent robot-assisted partial nephrectomy for renal tumours.	Int J Med Robot. 2024 Aug ; 20(4):e2662.	Original Article

61	Shimizu R, Morizane S, Yamamoto A, et al	泌尿器科	Assessment of the accuracy of biparametric MRI/TRUS fusion-guided biopsy for index tumor evaluation using postoperative pathology specimens.	BMC Urol. 2024 Apr 4 ; 24(1):79. (オンライン)	Original Article
62	Yamane H, Morizane S, Yamaguchi N, et al	泌尿器科	Risk scoring system for evaluating pathological upstaging after radical nephroureterectomy for upper tract urothelial carcinoma: A multicenter study in Japan.	Int J Urol. 2025 May ; 32(5):502-507.	Original Article
63	Morizane S, Hussein AA, Jing Z, et al	泌尿器科	Comparison of perioperative outcomes of robot-assisted radical prostatectomy among the da Vinci, hinotori, and Hugo robot-assisted surgery systems.	J Robot Surg. 2025 Jan 17 ; 19(1):54. (オンライン)	Original Article
64	Kimura Y, Honda M, Yamane H, et al	泌尿器科	Outcomes in Health-Related Quality of Life and Impact of Urinary Incontinence on Health-Related Quality of Life 7a?Years After Robot-Assisted Radical Prostatectomy.	Int J Urol. 2025 Feb 27.	Original Article
65	Yamaguchi N, Morizane S, Yamane H, et al	泌尿器科	Perioperative and Oncologic Outcomes of Robot-assisted Versus Laparoscopic Radical Cystectomy in Patients With Bladder Cancer.	Anticancer Res. 2025 Mar ; 45(3):1215-1224.	Original Article
66	Hikita K, Honda M, Shimizu N, et al	泌尿器科	Comparison of retroperitoneal laparoscopic radical nephroureterectomy outcomes in elderly patients based on the Geriatric 8 (G8) screening tool.	Geriatr Gerontol Int. 2025 May ; 25(5):694-700.	Original Article
67	Morizane S, Miki J, Shimbo M, et al	泌尿器科	Japanese expert consensus on the standardization of robot-assisted pelvic lymph node dissection in urological surgery: Extent of pelvic lymph node and surgical technique.	Int J Urol. 2024 Dec ; 31(12):1300-1310.	Original Article
68	Hikita K, Nishikawa R, Taniguchi S, et al	泌尿器科	A Case of Rapidly Progressing Urothelial Carcinoma Arising After Living Donor Kidney Transplantation Treated with Chemotherapy and Immune Checkpoint Inhibitors.	Yonago Acta Med. 2025 Feb 15 ; 68(1):75-78. (オンライン)	Case Report
69	Komatsu H, Okawa M, Kazuki Y, et al	女性診療科	Characterization of immortalized ovarian epithelial cells with BRCA1/2 mutation.	Hum Cell. 2024 Jul ; 37(4):986-996.	Original Article
70	Nagata H, Komatsu H, Yamamoto K, et al	女性診療科	Comparison of surgical outcomes of da Vinci surgical systems X and Xi: A single-center study.	Asian J Endosc Surg. 2024 Jul ; 17(3):e13358.	Original Article
71	Nagata H, Hiyama TY, Inoue M, et al	女性診療科	P2X4 receptor mediates macrophage infiltration leading to endometriotic cyst epithelium proliferation and hyperalgesia in mouse model.	F S Sci. 2025 Feb ; 6(1):73-84.	Original Article
72	Harada T, Kobayashi T, Hirakawa A, et al	女性診療科	Efficacy and safety of the combination of estetrol 15 mg/drospirenone 3 mg in a cyclic regimen for the treatment of endometriosis-associated pain and objective gynecological findings: a multicenter, placebo-controlled, double-blind, randomized study.	Fertil Steril. 2024 Nov ; 122(5):894-901.	Original Article
73	Komatsu H, Sawada M, Iida Y, et al	女性診療科	New surgery technique combining robotics and laparoscopy using the Hugo? © RAS system.	Asian J Endosc Surg. 2024 Jul ; 17(3):e13344.	Original Article

74	Iida Y, Kobayashi-Kato M, Komatsu H, et al	女性診療科	Questionnaire-based survey on the extent of lymph node dissection during interval debulking surgery after neoadjuvant chemotherapy for patients with advanced ovarian cancer in the Gynecologic Cancer Study Group of JCOG.	Int J Clin Oncol. 2025 May ; 30(5):1040-1047.	Original Article
75	Komatsu H, Yamamoto K, Hikino K, et al	女性診療科	A Novel Port and Arm Placement Strategy for the Hugo Robotic-Assisted Surgery (RAS) System in Gynecologic Oncology: Initial Experience and Technical Considerations.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec ; 18(1):e70045.	Case Report
76	Taniguchi F, Fukui M, Osuga Y, et al	女性診療科	Non-inferiority study to compare the efficacy of relugolix with dienogest for endometriosis-associated pain and usefulness of administering relugolix prior to dienogest (READY study): study protocol for a multicenter randomized controlled study.	Trials. 2025 Feb 6 ; 26(1):41. (オンライン)	Original Article
77	Iida Y, Sato S, Yamamoto K, et al	女性診療科	Potential Efficacy of Inflammatory Response Markers for the Detection of Ovarian Cancer in Patients with Endometrioma.	Yonago Acta Med. 2025 Jan 23 ; 68(1):51-57. (オンライン)	Original Article
78	Minato H, Endo R, Kurata Y, et al	ペインクリニック外科	Azelinidipine protects HL-1 cardiomyocytes from hypoxia/reoxygenation injury by enhancement of NO production independently of effects on gene expression.	Heart Vessels. 2024 Oct ; 39(10):899-908.	Original Article
79	Tanishima S, Mihara T, Takeda C, et al	整形外科	Trends in infectious spondylitis from 2000 to 2020.	Eur Spine J. 2024 Aug ; 33(8):3154-3160.	Original Article
80	Okuno Y, Nagira K, Ishida K, et al	整形外科	Comparison of different cementing techniques for cement penetration under tibial component in total knee arthroplasty: a retrospective observational study.	Knee Surg Relat Res. 2024 Sep 20 ; 36(1):28. (オンライン)	Original Article
81	Takeda C, Tanishima S, Ohuchi Y, et al	整形外科	Sclerotherapy for Aggressive Vertebral Hemangioma with Severe Bone Destruction: A 5-Year Analysis.	Spine Surg Relat Res. 2024 May 10 ; 8(5):548-551. (オンライン)	Original Article
82	Tanishima S, Mihara T, Takeda C, et al	整形外科	Answer to the letter to the editor of Y.-J. Kao, et al. concerning "Trends in infectious spondylitis from 2000 to 2020" by S. Tanishima, et al. (Eur Spine J [2024]; doi.org/10.1007/s00586-024-08286-7).	Eur Spine J. 2025 Jan ; 34(1):434-435.	Letter
83	Tani N, Yamada N, Anzawa K, et al	皮膚科	Majocchi's Granuloma with Epidermal Cysts due to Trichophyton rubrum: Ultrastructural Observations.	Acta Derm Venereol. 2024 Sep 15 ; 104:adv40148. (オンライン)	Case Report
84	Ehara Y, Yamada N, Horie T, et al	皮膚科	Novel in vivo observations of luliconazole 5% nail solution for onychomycosis: An ultrastructural study.	Med Mycol. 2025 Feb 28 ; 63(3):myaf016.	Original Article
85	Higaki-Mori H, Yamada N, Ozaki K, et al	皮膚科	Spontaneous Complete Regression of Aleukaemic Cutaneous Myeloid Sarcoma without Progression to Leukaemia Over a Long-term Follow-up Period.	Acta Derm Venereol. 2025 Feb 25 ; 105:adv42339. (オンライン)	Original Article
86	Baba T, Uotani R, Inata K, et al	眼科	Tear fluid cytokine analysis: a non-invasive approach for assessing retinopathy of prematurity severity.	Jpn J Ophthalmol. 2024 Sep ; 68(5):482-489.	Original Article

87	Koyama S, Kimura T, Donishi R, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Percutaneous laryngeal elevation technique to achieve excellent hypopharyngeal exposure in transoral surgery.	Auris Nasus Larynx. 2024 Dec ; 51(6):1048–1051.	Case Report
88	Tagigawa H, Hanajima R, Aiba I, et al	脳神経内科	Japanese longitudinal biomarker study in progressive supranuclear palsy and corticobasal degeneration: Clinical features of the first registered patients and short-term follow-up analysis.	Clin Park Relat Disord. 2024 Oct 26 ; 11:100279. (オンライン)	Original Article
89	Suzuki Y, Adachi T, Yoshida K, et al	脳神経内科	Psychiatric symptoms and TDP-43 pathology in amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol Sci. 2024 Nov 15 ; 466:123249.	Original Article
90	Kanai S, Oguri M, Okanishi T, et al	脳神経外科	Predictive modeling based on functional connectivity of interictal scalp EEG for infantile epileptic spasms syndrome.	Clin Neurophysiol. 2024 Nov ; 167:37–48.	Original Article
91	Okanishi T, Fujimori I, Yamada M, et al	脳神経外科	Diagnostic flow analysis of tuberous sclerosis complex in Japan: a retrospective claims database study.	Orphanet J Rare Dis. 2024 Dec 1 ; 19(1):451. (オンライン)	Original Article
92	Hosoya T, Kambe A, Kesumayadi I, et al	脳神経外科	Mechanism and significance of diffusion restriction followed by calcification in high-grade glioma treated with bevacizumab.	Sci Rep. 2024 Nov 2 ; 14(1):26419. (オンライン)	Original Article
93	Arai Y, Okanishi T, Masumoto T, et al	脳神経外科	The impact of maternal prenatal psychological distress on the development of epilepsy in offspring: The Japan Environment and Children's Study.	PLoS One. 2024 Nov 13 ; 19(11):e0311666. (オンライン)	Original Article
94	Arai Y, Yoshino G, Ohta K, et al	脳神経小児科	Impact of clinical clerkship integrated with clinical ladder on attending physicians' teaching self-efficacy.	BMC Med Educ. 2024 Apr 10 ; 24(1):400. (オンライン)	Original Article
95	Arai Y, Okazaki T, Okanishi T, et al	脳神経小児科	Weight gain achieved by frequent feeding in Floating-Harbor syndrome: A case report.	Pediatr Int. 2025 Jan–Dec ; 67(1):e15860.	Original Article
96	Arai Y, Ohta K, Yoshino G, et al	脳神経小児科	The Impact of Simulation-Based Training on Self-Efficacy in Sedation for Pediatric Magnetic Resonance Imaging.	Yonago Acta Med. 2024 Apr 17 ; 67(2):108–113. (オンライン)	Original Article
97	Arai Y, Okanishi T, Okazaki T, et al	脳神経小児科	An adolescent case of ASXL3-related disorder with delayed onset of feeding difficulty.	BMC Pediatr. 2024 May 6 ; 24(1):308. (オンライン)	Case Report
98	Arai Y, Okanishi T, Nakamura Y, et al	脳神経小児科	Impact of problem-based learning on stigma toward epilepsy among medical students: An intervention verification study.	Epilepsy Behav. 2025 Feb ; 163:110200.	Original Article
99	Nishiguchi T, Shibata K, Yamanishi K, et al	精神科	The Bispectral Electroencephalography Method Quantifies Postoperative Delirium-Like States in Young and Aged Male Mice After Head-Mount Implantation Surgery.	J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2024 Aug 1 ; 79(8):glae158.	Original Article
100	Yoshioka D, Yamanashi T, Hayashi T, et al	精神科	Obsessive-compulsive disorder after traumatic injury to the right frontal and left temporal lobes: A case report.	PCN Rep. 2024 Jun 14 ; 3(2):e199. (オンライン)	Case Report
101	Nishiguchi T, Yamanishi K, Gorantla N, et al	精神科	Lipopolysaccharide-Induced Delirium-Like Behavior and Microglial Activation in Mice Correlate With Bispectral Electroencephalography.	J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2024 Dec 1 ; 79(12):glae261.	Original Article

102	Nishiguchi T, Yamanishi K, Patel S, et al	精神科	Discovery of novel protective agents for infection-related delirium through bispectral electroencephalography.	Transl Psychiatry. 2024 Oct 3 ; 14(1):413. (オンライン)	Original Article
103	Miura A, Yamanashi T, Kajitani N, et al	精神科	Medium-Chain Triglyceride Administration Induces Antidepressant Effects in Animal Models by Increasing Beta-Hydroxybutyrate Levels.	Yonago Acta Med. 2025 Jan 23 ; 68(1):58-67. (オンライン)	Original Article
104	Kazuya Matsumoto?1,2,?Suguru Kakite?3,?Takaaki Sugihara?1,?Eijiro Yamashita?4,?Kenichi Miyoshi?1,?Takumi Onoyama?1,?Soichiro Kawata?1,?Yuichiro Ikebuchi?1,?Yohei Takeda?1,?Hiroki Koda?1,?Taro Yamashita?1,?Naoyuki Yamaguchi?5,?Masahiko Koda?6,?Hajime Isomoto?1	1.Division of Medicine and Clinical Science, Department of Multidisciplinary Internal Medicine3.Division of Radiology, Department of Pathophysiological and Therapeutic Science, School of Medicine4.Division of Clinical Radiology, Tottori University Hospital	Fusion Imaging Objectively Demonstrates Improved Pancreas Visualization through Manipulation Techniques: A Prospective Interventional Study	Intern Med. 2024 Oct 15 ; 63(20):2729-2737. doi: 10.2169/internalmedicine.2822-23. Epub 2024 Mar 11.	Original Article
105	Hiroaki Yazama 1, Yasuomi Kunimoto 2, Kensaku Hasegawa 3, Tasuku Watanabe 1, Kazunori Fujiwara 1	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Characteristics of repeated recidivism in surgical cases of cholesteatoma requiring canal wall reconstruction	Ear Nose Throat J. 2024 Apr ; 103(4):234-240. doi: 10.1177/01455613211048575. Epub 2021 Oct 1.	Review
106	Yuri Koyama?1,?Tetsuya Yumioka?2,?Hirofumi Ohno?2	泌尿器科	Renal pseudoaneurysm after calculous pyelonephritis	IJU Case Rep. 2024 Feb 27 ; 7(3):234-237. doi: 10.1002/iju5.12711. eCollection 2024 May.	Case Report
107	Yusuke Kono 1, Tomoyuki Matsunaga 2, Masahiro Makinoya 2, Shota Shimizu 2, Yuji Shishido 2, Kozo Miyatani 2, Kyoichi Kihara 2, Manabu Yamamoto 2, Shuichi Takano 2, Naruo Tokuyasu 2, Teruhisa Sakamoto 2, Toshimichi Hasegawa 2, Yoshiyuki Fujiwara 2	腫瘍外科	Preoperative low skeletal muscle volume can result in insufficient administration of S-1 adjuvant chemotherapy in older patients with stage II/III gastric cancer	Surg Today. 2024 Apr ; 54(4):340- 346. doi: 10.1007/s00595-023- 02737-2. Epub 2023 Aug 17.	Original Article
108	Aiko Takami 1, Masaru Kato 2, Yasuhiro Kotake 1, Akihiro Okamura 1, Takuya Tomomori 1, Shunsuke Kawatani 1, Kazuhiro Yamamoto 1	小児科	Predicting factors for omitting beta- blockers in patients with tachycardia-induced cardiomyopathy after successful catheter ablation for atrial fibrillation	Heart Vessels. 2024 Aug ; 39(8):706- 713. doi: 10.1007/s00380-024- 02385-7. Epub 2024 Mar 6.	Original Article
109	Yuichi Yoshida?1	皮膚科	Neurofibromatosis 1 (von Recklinghausen Disease)	Keio J Med. 2025 Mar 25 ; 74(1):37- 41. doi: 10.2302/kjm.2023-0013-IR. Epub 2023 Aug 26.	Review
110	Satoshi Koyama?1,?Hiroaki Ehara?1,?Ryohei Donishi?1,?Kenkichi Taira?1,?Takahiro Fukuhara?1,?Kazunori Fujiwara?1	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Therapeutic Host Anticancer Immune Response through Photoimmunotherapy for Head and Neck Cancer May Overcome Resistance to Immune Checkpoint Inhibitors	Case Rep Oncol. 2024 Aug 21 ; 17(1):913-920. doi: 10.1159/000540242. eCollection 2024 Jan-Dec.	Case Report

111	Yuki Suzuki 1, Tadashi Adachi 2, Kentaro Yoshida 1, Kenta Taneda 1, Mayuko Sakuwa 1, Masato Hasegawa 3, Ritsuko Hanajima 1	脳神経内科	Atypical TDP-43 proteinopathy clinically presenting with progressive nonfluent aphasia: A case report	Neuropathology. 2024 Apr ; 44(2):154-160. doi: 10.1111/neup.12942. Epub 2023 Sep 17.	Case Report
112	Shuichi Morizane?1,?Atsushi Takenaka?1	泌尿器科	Current status and therapeutic value of extended pelvic lymph node dissection during radical prostatectomy for prostate cancer	Prostate Int. 2024 Sep ; 12(3):117-127. doi: 10.1016/j.prril.2024.03.002. Epub 2024 Mar 17.	Review
113	Yuko Yamada?1,?Hiroki Yokoyama?2,?Ryo Kinoshita?2,?Koichi Kitamoto?2,?Yasuo Kawaba?3,?Shinichi Okada?4,?Takashi Horie?5,?China Nagano?6,?Kandai Nozu?6,?Noriyuki Namba?2	小児科	Familial focal segmental glomerulosclerosis with Alport-like glomerular basement changes caused by paired box protein 2 gene variant	CEN Case Rep. 2024 Jun ; 13(3):204-208. doi: 10.1007/s13730-023-00830-6. Epub 2023 Oct 28.	Case Report
114	Makoto Kawasaki?1,?Rieko Doi?2,?Nobuyuki Fuji?2,?Takayuki Tamura?2,?Isamu Kodani?2	口腔外科	A Case of Juvenile Trabecular Ossifying Fibroma Arising from the Maxilla in a 2-Year-Old Child	Yonago Acta Med. 2025 Feb 14 ; 68(1):68-74. doi: 10.33160/yam.2025.02.008. eCollection 2025 Feb.	Case Report
115	Tomohiro Haruki?1,?Yasuaki Kubouchi?2,?Yoshiteru Kidokoro?2,?Shinji Matsui?2,?Takashi Ohno?2,?Shunsuke Kojima?2,?Hiroshige Nakamura?2	呼吸器外科	A comparative study of robot-assisted thoracoscopic surgery and conventional approaches for short-term outcomes of anatomical segmentectomy	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 May ; 72(5):338-345. doi: 10.1007/s11748-023-01983-y. Epub 2023 Nov 7.	Original Article
116	Yasuaki Kubouchi?1,?Tomohiro Haruki?1,?Toho Wada?1,?Masaya Yamasaki?1,?Kengo Yasuda?1,?Wakako Fujiwara?1,?Karen Makishima?2,?Tatsuya Miyamoto?1,?Shinji Matsui?1,?Yoshihisa Umekita?2,?Masanori Hisaoka?3,?Yugo Tanaka?1	呼吸器外科	A Chest Wall Myofibroma in an Adult	Surg Case Rep. 2025 ; 11(1):24-0156. doi: 10.70352/scrj.cr.24-0156. Epub 2025 Apr 2.	Case Report
117	Kentaro Yoshida?1,?Tadashi Adachi?3,?Yuki Suzuki?1,?Mayuko Sakuwa?1,?Hiroki Fukuda?2,?Masato Hasegawa?4,?Yoshiki Adachi?5,?Hiroshi Miura?6,?Ritsuko Hanajima?1	脳神経内科	Corticobasal degeneration with visual hallucination as an initial symptom: A case report	Neuropathology. 2024 Aug ; 44(4):298-303. doi: 10.1111/neup.12963. Epub 2024 Jan 30.	Case Report

118	Chiharu Yasui?1,?Kyoichi Kihara?1,?Ryo Ishiguro?1,?Takuki Yagyu?1,?Yusuke Kono?1,?Manabu Yamamoto?1,?Tomoyu ki Matsunaga?1,?Naruo Tokuyasu?1,?Teruhisa Sakamoto?1,?Yoshiyuki Fujiwara?1	消化器外科	Risk Assessment of Stoma Outlet Obstruction Development when a Temporary Ileostomy is Created during Rectal Cancer Surgery	J Anus Rectum Colon. 2025 Apr 25 ; 9(2):260-269. doi: 10.23922/jarc.2024-109. eCollection 2025.	Original Article
-----	---	-------	---	--	------------------

計118件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	山本 一博,衣笠 良治, 中村 研介 他	循環器内科	鳥取県における心不全患者の疫学調査 10年間の推移	疾病構造の地域特性対策専門委員会報告; 2024.05.38:32-35	Original Article
2	磯本 一,河口 剛一郎	腎臓内科	根治的内視鏡治療が可能であった早期食道癌症例の死因に関するコホート研究	疾病構造の地域特性対策専門委員会報告; 2024.05.38:36-44	Original Article
3	永原 天和	腎臓内科	鳥取県の肝細胞癌の実態と非ウイルス性肝疾患の拾い上げ事業	疾病構造の地域特性対策専門委員会報告; 2024.05.38:16-21	Original Article
4	木原 恭一,澤田 将平, 石黒 諒 他	小児外科	20歳右側結腸間膜リンパ管腫の1例	日本臨床外科学会雑誌; 2024.08.85:1091-1098	Original Article
5	若原 誠,田中 裕子,細 谷 恵子 他	乳腺内分泌外科	鳥取県における遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)の解析	疾病構造の地域特性対策専門委員会報告; 2024.05.38:28-31	Original Article
6	田中 裕子,大島 祐貴, 深谷 由美 他	乳腺内分泌外科	トリプルネガティブタイプの潜在性乳癌の1例	癌と化学療法; 2024.04.51:421-423	Original Article
7	大島 祐貴,深谷 由美, 細谷 恵子 他	乳腺内分泌外科	83歳男性に発症した進行副乳癌の1例	日本臨床外科学会雑誌; 2024.12.85:1656-1660	Original Article
8	田中 芳宏,金谷 治尚, 石田 孝次 他	整形外科	当院における膝OAに対するAPS療法 の短期成績	中国・四国整形外科学会雑誌; 2024.04.36:1111-1115	Original Article
9	藤原 聖史,谷島 伸二, 三原 徳満 他	整形外科	後頭頸椎固定術後の頸髄症に対して 通常の挿管が困難であった1例	Journal of Spine Research; 2024.12.15:1362-1366	Original Article
10	赤堀 圭一,山家 健作, 尾崎 まり 他	整形外科	多発骨転移として紹介となった褐色 腫(brown tumor)の2例	整形外科と災害外科; 2024.09.73:869-872	Original Article
11	中河 直輝,林 育太,榎 田 誠 他	整形外科	肩腱板断裂における小円筋のMRI信 号強度とShoulder 36 V.1.3(患者立脚 肩関節評価法)の関係	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌; 2024.09.67:683-684	Original Article
12	萩野 洋太郎,柳楽 慶 太,金谷 治尚 他	整形外科	85歳以上の人工膝関節全置換術の 治療成績	整形外科と災害外科; 2024.09.73:900-903	Original Article

13	横川 敬,石田 孝次,林育太 他	整形外科	関節窩に対する烏口突起の傾きが鏡視下腱板修復術の手術成績に与える影響	中国・四国整形外科学会雑誌；2024.09.36:195-198	Original Article
14	坂本 誠	脳神経外科	最新医用画像による脳血管内手術の革新	医用画像情報学会雑誌；2024.09.41:53-59	Review
15	山口 穂菜美,嘉手苅瑠輝,前垣 義弘	脳神経小児科	鳥取県の医療機関における発達障害および知的障害(神経発達症)への医療連携に向けたアンケート調査	鳥取医学雑誌；2024.10.52:13-21	Original Article
16	前垣 義弘,中村 裕子,林 陽菜乃	脳神経小児科	鳥取県における発達障がい児に生じた二次障がい、特に不登校に関連する要因とその対応に関する研究	疾病構造の地域特性対策専門委員会報告；2024.05.38:1-9	Original Article
17	仲田 夢人,市川 ひとみ,河村 浩二	仲田 夢人,市川 ひとみ,河村 浩二	仲田 夢人,市川 ひとみ,河村 浩二	医療検査と自動化；2024.11.49:539-544	Original Article
18	木村 隆登,上田 敬博,矢田 晋作 他	高度救命救急センター	外傷性浅大腿動脈仮性動脈瘤に対しViabahn挿入術で治療した1例	米子医学雑誌；2024.09.75:48-53	Original Article
19	石見 香穂,田部 有子,藤井 信行	診療支援技術部	口腔ケアにより食事摂取量の増加を図ったスティープンス・ジョンソン症候群の一例	日本口腔ケア学会雑誌；2024.06.19:56-61	Original Article
20	森田 歩未,榎田 誠,林育太 他	スポーツ医科学センター	長期無月経により多数回の骨折を発症した女性陸上長距離選手の一例	中国・四国整形外科学会雑誌；2024.04.36:39-44	Original Article
21	権田 拓郎,椋田 奈保子,タ永 裕士 他	放射線科	【腹部の最新画像情報2024】悪性卵巣甲状腺腫の1例	臨床放射線；2024.05.69:273-278	Original Article
22	保手浜 裕之,タ永 裕士,山路 大輔 他	放射線科	前縦隔脂肪肉腫の1例	臨床放射線；2024.11.69:855-860	Original Article
23	小山 優里,本田 正史,坂本 憲生 他	泌尿器科	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術後に人工尿道括約筋植込術を行った2例 尿失禁に関与した因子の考察	西日本泌尿器科；2024.12.87:58-62	Original Article
24	清水 龍太郎,森實 修一,武中 篤	泌尿器科	ロボット支援腎尿管全摘除術と鏡視下尿管全摘除術の周術期成績の比較検討	Japanese Journal of Endourology and Robotics；2024.04.37:173-177	Original Article
25	神澤 和慶,西川 涼馬,清水 成 他	泌尿器科	膀胱癌に対する膀胱全摘後の右尿管再発に対してエンホルツマブドネンが長期に奏効した一例	西日本泌尿器科；2024.08.86:311-315	Original Article
26	清水 成,神澤 和慶,尾崎 泰起 他	泌尿器科	前立腺癌左尿管転移の一例	西日本泌尿器科；2024.08.86:329-333	Original Article
27	船木 一美,藤井 由衣,北川 良憲 他	麻酔科	出血性ショックを繰り返したサイトメガロウイルス感染を合併した十二指腸潰瘍の一例	米子医学雑誌；2024.09.75:41-47	Original Article
28	大槻 明広	麻酔科	がんサバイバーの疼痛対策	臨床麻酔；2024.08.48:921-928	Review
29	唐下 千寿,松浦 一貴,今岡 慎也 他	眼科	心因性視覚障害における視覚関連基礎スキルアセスメント(WAVES)の応用(続報)	臨床眼科；2024.06.78:683-691	Original Article
30	紙谷 亮,矢間 敬章,渡部 佑 他	耳鼻咽喉科	BMI70の高度肥満のある外耳道癌例の治療経験	耳鼻咽喉科臨床；2024.11.117:985-990	Original Article
31	中村 陽祐	耳鼻咽喉科	難治性鼻副鼻腔炎を合併した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対する生物学的製剤サイクリング療法症例	アレルギーの臨床；2024.10.44:899-902	Original Article
32	木村 透,小山 哲史,福原 隆宏 他	耳鼻咽喉科	ペムプロリズマブ単独療法後にペムプロリズマブと化学療法の併用療法で長期奏効を得た下咽頭癌例	耳鼻咽喉科臨床；2024.10.117:923-928	Original Article
33	藤原 和典	耳鼻咽喉科	【気管食道科領域におけるロボット手術の現状とこれから】気管食道科領域におけるロボット手術の現状とこれから	日本気管食道科学会会報；2024.10.75:277-281	Review

計33件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 1. 目的と適応範囲 1.1. 目的 1.2. 適応範囲 2. 委員会の構成 2.1. 委員 2.2. 委員会事務局 2.3. 教育・研修 2.4. 守秘義務 2.5. 利益相反の管理 3. 審査・報告事項 4. コンサルテーション 5. 審査・報告申請 5.1. 審査・報告資料の提出 5.2. 提出資料 6. 倫理審査 6.1. 一般審査 6.2. 迅速審査 7. 審査結果の通知 8. 審査結果通知後の対応 9. 調査 10. 他の研究機関からの審査依頼 11. 情報公開 12. 記録の保管	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 37 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会 の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>(目的)</p> <p>鳥取大学医学部附属病院における臨床研究の実施者及びその関係者の利益相反(以下「利益相反」という。)が深刻な事態へと発展することを未然に防止するため、臨床研究に係る利益相反の適切な管理(以下「利益相反マネジメント」という。)に関し必要な事項を定め、もって臨床研究の適正な推進を図ることを目的とする。</p> <p>(利益相反マネジメントの対象及び基準)</p> <p>利益相反マネジメントの対象者は、次に掲げる者</p> <p>一 臨床研究実施者等</p> <p>二 臨床研究実施者等の配偶者及び臨床研究実施者等と生計を一にする当該臨床研究実施者等の親族</p> <p>三 その他審査委員会が必要と判断した者</p> <p>開示対象とする事項</p> <p>一 経済的利益</p> <p>二 経営関与</p> <p>利益相反マネジメントは、臨床研究を実施するに当たり、被験者及び社会に対し、教育者・研究者又は医療関係者としての公正性に客観的な疑念を生じさせるか否かを判断基準として行うものとする。</p> <p>(臨床研究実施者等の責務)</p> <p>利益相反の発生が懸念される場合は、この規程に定めるところにより所定の手続きを経るほか、透明性、公正性の確保に自ら努める。</p>	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 13 回
---------------------------------------	--------

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6 回
<p>・研修の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理的原則とインフォームド・コンセントの考え方 2. 臨床研究・臨床試験の教訓的事例に学ぶ最新のエビデンスの読み解き方 3. 医療分野における実用化戦略と留意点 4. 研究への患者・市民参画（PPI） 5. データマネジメント概論 6. 臨床研究を実施するための基礎知識 	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科の研修統括者のもと指導医による専門研修の指導を行っており、新専門研修制度においては、本院を基幹施設として県内外の関連病院を連携施設とした専門研修プログラムを策定し、各領域において高度な医療に関する研修の指導体制を構築している。また、各領域の研修プログラムにおいては、専門医資格の取得をはじめ、大学院重点コースや地域医療に配慮したコースを設定し、高度な医療に関する専門知識・技術、資質を習得し、社会に貢献できる医師の育成を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	268	人
-------------	-----	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 克	循環器内科	診療科長	28年	内科含む
大倉 毅	内分泌代謝内科	診療科長	25年	内科含む
磯本 一	消化器内科/ 腎臓内科	主任診療科長	34年	内科含む
山崎 章	呼吸器内科/ 膠原病内科/ アレルギー科	主任診療科長	31年	内科含む
岩田 正明	精神科	診療科長	24年	
難波 範行	小児科	診療科長	33年	
藤原 義之	消化器外科/ 小児外科	主任診療科長	37年	
吉川 泰司	心臓血管外科	診療科長	28年	
田中 雄悟	呼吸器外科/ 乳腺内分泌外科	主任診療科長	23年	
永島 英樹	整形外科/ リウマチ科	診療科長	36年	
吉田 雄一	皮膚科	診療科長	30年	
武中 篤	泌尿器科	診療科長	38年	
宮崎 大	眼科	診療科長	35年	
藤原 和典	耳鼻咽喉科/ 頭頸部外科	主任診療科長	23年	
藤井 進也	放射線科	診療科長	26年	
吉田 賢史	放射線治療科	診療科長	26年	
谷口 文紀	産婦人科	診療科長	31年	
大槻 明広	麻酔科	診療科長	25年	
小谷 勇	歯科口腔外科	診療科長	30年	
今村 武史	薬物療法内科	診療科長	37年	
八木 俊路朗	形成外科	診療科長	23年	
上田 敬博	救急科	診療科長	26年	
河村 浩二	血液内科	診療科長	17年	内科含む

花 島 律 子	脳神経内科	診療科長	34年	内科含む
黒 崎 雅 道	脳神経外科	診療科長	34年	
前 垣 義 弘	脳神経小児科	診療科長	36年	
栗 野 宏 之	遺伝子診療科	診療科長	21年	
梅 北 善 久	病理診断科	診療科長	37年	
中 本 成 紀	感染症内科	診療科長	28年	内科含む

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1. BLS研修

- ・研修の主な内容 一時救命処置の知識の習得
- ・研修の期間・実施回数 令和6年12月～令和7年3月・9回
- ・研修の参加人数 501人

2. 緩和ケア研修会

- ・研修の主な内容 がん診療に携わる全ての医療従事者の緩和ケアの基本的知識の習得
- ・研修の期間・実施回数 令和7年3月1日・1回
- ・研修の参加人数 10人

3. がんセミナー

- ・研修の主な内容 がん診療について、幅広い知識の習得
- ・研修の期間・実施回数 令和6年6月～令和7年3月・5回
- ・研修の参加人数 191人

4. 接遇研修

- ・研修の主な内容 よりよい看護サービスを提供するための接遇を学ぶ
- ・研修の期間・実施回数 令和6年4月2日・1回
- ・研修の参加人数 74人

5. 倫理研修（基礎）

- ・ 研修の主な内容 臨床における倫理的課題から看護師としての基本的な考え方を確認する
- ・ 研修の期間・実施回数 令和6年4月1日・1回
- ・ 研修の参加人数 74人

6. 災害看護研修

- ・ 研修の主な内容 当院の災害時の初期対応がわかる
アクションカードに沿った地震発生時の対応がわかる
- ・ 研修の期間・実施回数 令和6年7月18日～令和6年7月19日・2回
- ・ 研修の参加人数 68人

7. 臓器提供に関する研修会

- ・ 研修の主な内容 移植医療の充実に向けて、臓器移植の現状及びその可能性・役割などについて、理解を深める
- ・ 研修の期間・実施回数 令和6年10月～令和7年2月・2回
- ・ 研修の参加人数 176人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1. ハラスメント防止研修会

- ・ 研修の主な内容 ハラスメントに関する基本的な知識を修得するとともに、大学等におけるハラスメント問題の現状を知り、各部局等でハラスメントの防止に取り組むことを目的とする
- ・ 研修の期間・実施回数 令和6年11月～令和7年2月（e-learningにより実施）

- ・研修の参加人数 460人

2. ハラスメント相談員研修会

- ・研修の主な内容 ハラスメント相談員が相談員の任務、役割の重要性を理解するとともに、ハラスメント相談を受ける際に必要な知識、スキル等を習得し、相談への対応能力を向上させることを目的とする
- ・研修の期間・実施回数 令和6年11月～令和7年2月（e-learningにより実施）
- ・研修の参加人数 6人

3. メンタルヘルス研修（セルフケア、ラインケア）

- ・研修の主な内容 本学教職員を対象に、ストレスに関する基礎知識を学ぶとともに、ストレス対処法を知ることにより、日々のセルフケアの習慣を身につけさせる機会を設けること、それにより教職員の心の健康促進を図ることを目的とする
- ・研修の期間・実施回数 令和6年12月～令和7年3月（e-learningにより実施）
- ・研修の参加人数 71人

4. 労務管理研修会

- ・研修の主な内容 最近の労務管理をめぐる動向に関する説明を行うとともに、本学の就業規則、労使協定を踏まえて、長時間労働による健康障害の防止（安全配慮義務）、勤務時間管理、ワークライフバランス等について意識啓発を行う
- ・研修の期間・実施回数 令和6年8月～令和6年10月（e-learningにより実施）

- ・研修の参加人数 52人

5. 鳥取大学病院コンプライアンス研修

- ・研修の主な内容 鳥取大学病院が公正かつ適切な経営を実現し、本院に求められる社会的責任や公共的使命を果たす病院として信頼されるために、コンプライアンスに関する基本方針を策定し維持するための体制作りを行う。また、様々な視点から病院職員に求められるコンプライアンスについて通年の研修を行い、職員の意識を組織的に高めることを目的とする
- ・研修の期間・実施回数 令和6年4月～令和7年3月・11回
- ・研修の参加人数 3954人

6. 個人情報保護研修会（一般向け）

- ・研修の主な内容 個人情報とは、本学の個人情報保護、個人情報の取扱い、個人情報の漏えい
- ・研修の期間・実施回数 令和6年10月15日～令和7年3月31日（オンデマンド開催）
- ・研修の参加者 1,214人

7. 個人情報保護研修会（保護管理者・保護担当者向け）

- ・研修の主な内容 個人情報保護法上の安全管理措置について
- ・研修の期間・実施回数 令和7年2月12日～令和7年3月31日（オンデマンド開催）
- ・研修の参加者 10人

8. コンプライアンス研修（個人情報保護について）

- ・研修の主な内容 ・個人情報とは？ 個人情報漏えいの事例

・ 情報管理のポイント

・ 研修の期間・実施回数 令和6年11月27日（対面）

令和6年11月27日～令和7年2月28日（オンデマンド開催）

・ 研修の参加者 1,319人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・ 研修の主な内容

・ 研修の期間・実施回数

・ 研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 武中 篤	
管理担当者氏名	総務課長 足立学、経営企画課 市川貢資、医事課長 末廣徹、 医療支援課長 清水誠	

		保 管 場 所	管 理 方 法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	病院日誌は、紙ベースにて日付順に保管。 病院日誌は、紙ベースにて日付順に保管。 外来カルテ、入院カルテは電子カルテにて中央管理。 紙媒体によるものはスキャンにて電子保存。 電子化されているものは電子カルテ管理。 エックス線写真は電子カルテにて中央管理（一部フィルムにて各診療科保管）。 なお、診療録を病院外に持ち出すことは禁止している。	
		各科診療日誌	各診療科に係る病棟		
		処方せん	医療情報部		
		手術記録	医療情報部		
		看護記録	医療情報部		
		検査所見記録	医療情報部		
		エックス線写真	医療情報部		
		紹介状	医療情報部		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務係	電子カルテにて中央管理 年度毎に紙媒体で管理 高度の医療技術の開発及び評価の実績は、年度毎に紙媒体で管理している。 電子カルテにて中央管理 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
		高度の医療の提供の実績	医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務係		
		高度の医療の研修の実績	経営企画課		
		閲覧実績	総務係		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	掲げる事項	規則第一條の十二第二項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		医事課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第三条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第四条	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第五条	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
	第六条	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課
	第七条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
	第八条	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
	第九条	医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
	第十条	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 MEセンター
	第十一条	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 MEセンター
第十二条	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 MEセンター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部 MEセンター
		管理者が有する権限に関する状況	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="checkbox"/> 2. 現状 <input checked="" type="checkbox"/>
閲覧責任者氏名	病院長 武中 篤
閲覧担当者氏名	総務課長 足立 学、経営企画課長 市川貢資 医事課長 末廣 徹、医療支援課長 清水 誠
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室
閲覧の手続の概要 ①公開は、請求者が「開示請求書」を情報公開窓口の総務企画部総務課広報企画係に提出する。 ②大学は開示・不開示の決定を行い、「決定通知書」により請求者へ通知する。 ③請求者は、開示の実施方法・希望日を「開示の実施方法の申出書」により窓口へ申し出、開示実施手数料を支払う。 ④開示(閲覧)を実施する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 0 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 安全管理に関する基本的考え方 (2) 安全管理のための組織に関する基本的事項 (3) 医療安全管理のための医療従事者に対する研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院における医療従事者と患者及び家族等との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 患者及び家族等からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 医療に係る安全管理体制の確保及び推進を図り、医療事故等及び医療行為に基づく医事紛争に対する防止策等について審議する。 <p>(審議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療に係る安全管理のための指針の策定・整備に関すること ・ 医療に係る安全管理のための教育・研修の企画・立案に関すること ・ 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること ・ 医療事故等及び医事紛争を防止するために必要な啓発及び対策に関すること ・ 医療事故等発生時の対応、事実確認並びに医療安全の確保及び医療事故等の再発防止に関し病院長から命を受けたこと ・ その他医療に係る安全管理体制の確保及び推進に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 72 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて) <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全必須研修会 (2回) ・ 医療安全研修会 (10回) ・ 委託業務従事者研修会 (1回) ・ 医療機器研修会 (10回) ・ BLS研修会 (10回) ・ 薬剤関連研修会 (4回) ・ 病院情報システム研修会 (14回) ・ 新採用者研修 (安全) (14回) ・ 院内認定看護師育成研修 (3回) ・ 転倒・転落予防コース研修 (1回) ・ 研修医研修 (1回) ・ 看護補助者研修 (1回) ・ 復職者研修 (1回) 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 <p>(報告の分析)</p> <p>1. 医療安全管理責任者の指示のもと、医療安全管理者が、インシデント報告書を基に①内容 ②原因と要因 ③改善策 ④患者影響レベル ⑤患者及び家族</p>	

への対応と反応等について現場で確認を行っている。

2. 1を基に問題点を抽出し、現場や院内全体での改善策を講じている。

(検討方法)

1. 医療安全管理責任者を中心に、医療安全管理者、リスクマネジメント専門委員会委員が、インシデント報告についてカンファレンスを実施し、再発防止対策を検討する。
2. 医療安全管理者は毎月の事例を分析し報告書を作成、リスクマネジメント専門委員会・医療事故防止等対策委員会・病院運営会議・統括医長連絡会リスクマネジメント担当者連絡会・看護師長会議等で報告し検討している。
3. 事例によっては、医療安全向上委員会・拡大医療安全向上委員会等で審査を行う。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 感染管理組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策推進のために必要な基本方針 8. 職業感染防止のための基本方針 9. 抗菌薬適正使用に関する基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防の対策に関すること 2. 感染予防対策実施の監視及び指導に関すること 3. 感染予防に係る情報の収集に関すること 4. 感染の発生原因及び感染経路の調査に関すること 5. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて） <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院機能評価受審に向け、基本的な感染対策の徹底を図る！ ・ 当院におけるCDI対策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症診療カンファレンスによる抗菌薬耐性菌検出患者・血液培養陽性患者・MRSA感染症治療薬および広域抗菌薬投与患者などの診断・治療・感染対策の検討 ・ 病棟ラウンドによる感染対策実施状況確認と現場指導 ・ サーベイランスによる感染症情報の把握とアウトブレイクへの対応 ・ 感染制御部メンバーによる定期ミーティング 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 17 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全研修会「当院での医薬品の安全使用について～最近の話題～」(1回) ・ インスリン療法・血糖測定研修会(1回) ・ 医薬品副作用被害救済制度(1回) ・ カリウム製剤の取り扱いについて(1回) ・ 適応外 高濃度カリウム投与時の留意点(1回) ・ 新採用・中途採用職員オリエンテーション(12回) 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (☑・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の採用・購入に関する事項 ・ 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) ・ 患者の持参薬歴情報等の収集方法、処方せんの記載方法 ・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 ・ 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項 ・ 他施設(病院等、薬局等)との連携に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容 <p>(情報収集の方法 ※未承認等の医薬品の情報その他の情報の収集)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理部および医薬安全に係る委員会と連携し、院内で発生するインシデント等の情報収集 ・ 病院で発生する副作用・感染症情報の把握 ・ 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業からの情報提供(口頭、インターネット、書面等) <p>(情報の周知方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急性、重要性、対象により、以下の方法等による周知を図る ・ 新採用者または全職員を対象に開催する研修会 ・ 書面や医療情報システム掲示板・院内メールを利用した情報提供 ・ 医師等の個人に直接情報提供 ・ 病棟担当薬剤師による医師薬剤師への説明会 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 10 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液ポンプ・シリンジポンプ研修会（4回） ・ 人工呼吸器研修会（1回） ・ 人工呼吸非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）（1回） ・ J-VACの安全な管理（1回） ・ 中心静脈挿入研修会（1回） ・ P I C C（末梢穿刺中心静脈カテーテル）研修会（2回） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ ☑・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ MEセンターで直接管理している医療機器については、点検の対象機器及び方法を定めセンターでの定期点検、現場定期点検、使用前点検、使用中点検、使用后点検に区別して点検記録簿を作成し管理保管している。 ・ 現場管理が主体となる放射線装置については、部署の担当責任者が管理し、MEセンターはそれらの医療機器の定期点検表、修理点検表等の写しを提出してもらい、一括管理保管する。 ・ 保守・修理・点検にあたっては、計画の作成に参画し、業者との窓口としての業務を行っている。院内で定期点検する場合は、メーカーの技術講習会を受けたMEが実施、点検項目や頻度はメーカー推奨を参考に作成している。 ・ 精度、機能、安全機構、ソフトのバージョン等メーカー技術講習に準じて実施。オーバーホールも含む。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ☑・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば） <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の添付文書、取扱説明書の安全使用・保守点検に関する文書整理し管理する。また、院内で発生する医療機器に関する不都合情報はMEセンターに報告してもらい、製造販売会社から適切な対処方法に関して情報提供を求めている。 ・ その他の改善のための方策の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理部、リスクマネジメント専門委員会と協議協力して、院内に周知する。 ・ 医療機器の不都合情報・安全情報等は、当該医療機器に直接携わる関係者には口頭、文書で通知し、院内には「MEセンター瓦版」、「リスクマネジメント便り」、あるいは医療情報システムを利用して情報提供を行う。さらに、研修会実施時に情報提供を行い、周知を図っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 病院長特別補佐（医療安全）を配置している。 （職務内容） ・ 医療安全管理部、医療事故防止等対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、インフォームド・コンセント説明等責任者の統括をしている。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医療安全管理部や医療安全に係る委員会等と連携の下、次の業務を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の安全のための業務に関する手順書の作成並びに改定 2. 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 3. 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施 4. 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認医薬品の使用状況は医薬品情報管理室にて一元管理を行い、定期的に（月一回程度）その結果を報告させ、必要な介入の指示を行い、実施させる。 ・ 担当者の指名の有無（有・無） ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明等の実施に必要な方法に関して、インフォームド・コンセントマニュアル等に定められた事項の遵守状況を定期的に確認している。 	

- ・説明方法、内容、文書管理等についての検討事項は、適宜インフォームド・コンセント専門委員会でルール化している。
- ・不適切な事例が認められる場合は、当該部署へ指導を行うとともに、必要に応じて院内文書（インフォームド・コンセント便り等）により病院全体へ周知している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容</p> <p>診療録管理委員会内に診療録監査専門部会を設置し、診療録等の記載内容、退院サマリーの作成状況、カウンターサインの実施状況等を毎月確認している。内容の記載不備、未作成又は未実施など不備がある場合は、担当医師に直接指導を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（１１）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（７）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（２）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全に関わる委員会の運営並びにその記録、資料等の作成及び保存に関すること ・医療安全に係る教育・研修の企画・立案・運営・学習効果測定の実施に関すること ・医療事故及びこれに準じて取り扱うことが必要な事象（以下「医療事故等」という。）が発生した場合における診療録や看護記録等への記載が、正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること ・医療事故等が発生した場合における患者又はその家族への説明などの対応状況についての確認及び指導に関すること ・医療事故等の発生原因の究明等対応状況が適切に実施されていることの確認及び当該確認結果に基づく医療従事者への必要な指導に関すること ・各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づく医療安全確保のための業務改善計画書の作成並びにそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録に関すること ・医療安全に資する診療内容及び医療従事者の医療安全の認識についてのモニタリングに関すること（診療録管理委員会にて監査を実施） ・死亡例及び合併症の報告等に関すること ・医療安全に係る内部通報に関すること ・医薬品及び医療機器の安全管理に係る助言指導に関すること ・インフォームド・コンセント及び診療録の管理の適切な実施に係る助言指導に関すること ・医療安全に係る外部監査に関すること ・医療安全に関わる委員会とその連携状況、院内研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱い、その他ゼネラルリスクマネージャーの活動実績の記録に関すること 	

- ・ 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施に関すること
- ・ 特定機能病院間相互のピアレビューの実施に関すること
- ・ 医療安全管理に係る連絡調整に関すること
- ・ 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供に関すること
- ・ 未承認新規医薬品・医療機器の使用に関すること
- ・ その他本院における医療安全の確保のための対策の推進に関すること

※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 5 件）、及び許可件数（ 3 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・ 活動の主な内容
 - ・ 高難度新規医療技術等に該当するか否かの判断に関すること
 - ・ 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供申請の適否等の決定及び結果通知に関すること
 - ・ 関係する委員会等との調整に関すること
 - ・ 提供を認めた高難度新規医療技術等の周知及び関係者への指導に関すること
 - ・ 病院長が定めた手順書の遵守状況の確認に関すること
 - ・ 患者申出療養の実施の可否に関すること
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 38 件）、及び許可件数（ 32 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・ 活動の主な内容
 - ・ 高難度新規医療技術等に該当するか否かの判断に関すること
 - ・ 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供申請の適否等の決定及び結果通知に関すること
 - ・ 関係する委員会等との調整に関すること
 - ・ 提供を認めた高難度新規医療技術等の周知及び関係者への指導に関すること

- ・ 病院長が定めた手順書の遵守状況の確認に関すること
- ・ 患者申出療養の実施の可否に関すること

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 386 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 191 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療安全管理部が、入院患者の死亡事例を確認し、その中で異状死、問題のある症例、診療科から報告のあった死亡事例については、さらに詳しく検証を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名：和歌山県立医科大学附属病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：滋賀医科大学附属病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況
該当事項無し

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
平成15年4月1日に医療相談室を設置し、現在、医療相談室長(医師)1名、医事課及び医療支援課の事務職員15名の相談員を配置している。
また、令和2年5月1日に総合患者相談窓口を新設し、専任の相談員を配置するとともに看護師及び医療支援課の事務職員18名の相談員が連携対応している。
相談受付時間は、平日8:30から17:00(土日祝日除く)としている。
(活動状況等)
医療相談室及び総合患者相談窓口の相談員が、医療安全管理部(医療安全管理者)と協力して患者等からの安全管理を含めた医療に関する相談や苦情などに適切に対応している。
対応にあたっては、患者等の秘密の厳守及び患者が不利益を受けないよう適切な措置を講じながら適切かつ迅速に問題を解決するよう努めている。
また、必要に応じて、医師、看護師等各部署と協力して対応にあたり、途中経過及び結果を病院長に報告しているとともに、総合患者相談窓口では毎週、関係部署で1週間の事例共有と対応評価の

カンファレンスを実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

職員の医療の安全に関する意識、職員間の相互に連携して業務を行なうことについての認識、業務を安全に行なうための技能向上等を目的とした研修は、医療安全研修会、医療機器研修会等で実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を「特定機能病院管理者研修」参加させるなどの措置を講じている。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

評価を行った機関名： 公益財団法人 日本医療機能評価機構

認定期間： 令和6年11月15日～令和11年11月14日

評価内容： 主たる機能一般病院3として令和7年3月7日に認定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

鳥取大学医学部附属病院HPにて公表 (公表年月日： 令和7年4月8日)

・ 評価を踏まえ講じた措置

要改善の指摘事項は無し。

引き続き自己評価と点検を行っていく。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

1. 医師免許を有している者
2. 鳥取大学医学部附属病院の病院長、主任診療科長、診療科長又は診療施設の長に併任されている者
3. 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者
高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有し、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有すること。
* 医療安全管理業務とは以下のいずれかの業務をいう。
 - ① 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理者の業務
 - ② 医療事故防止等対策委員会の構成員としての業務
 - ③ 医療安全管理部における業務
 - ④ その他上記に準ずる業務
4. 組織管理能力等の医学部附属病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有している者
当院又は当院以外の病院（400床以上の総合病院）での以下のいずれかの組織管理経験があり、高度な医療を司る特定機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取りまく様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。
 - ① 病院長又は副病院長の経験
 - ② 診療科長又は診療施設等の長の3年以上の経験
5. 教育・研究・診療に必要な資質及び能力を有している者
大学の医学系教授の経験があり、学識に優れ、医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有している者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

鳥取大学ホームページにより公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
三木 達行	鳥取大学医学部附属病院	○	医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有・無
景山 誠二	鳥取大学医学部附属病院		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定（医学部長）	有・無
山本 一博	鳥取大学医学部附属病院		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第3号に基づく学長が指名する副病院長	有・無
森田 理恵	鳥取大学医学部附属病院		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づく役職指定（看護部長）	有・無
永島 英樹	鳥取大学医学部附属病院		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく病院から選出された教職員	有・無
山下 栄二郎	鳥取大学医学部附属病院		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく病院から選出された教職員	有・無
藤井 秀樹	鳥取県西部総合事務所米子保健所		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第6号に基づく学長が委嘱する学外の有識者	有・無
藤瀬 雅史	鳥取県西部医師会		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第6号に基づく学長が委嘱する学外の有識者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・ 合議体の主要な審議内容 管理運営上の諸種の事項の調査審議し、これらに関し必要な事項を建議する。</p> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況 医学部附属病院ホームページにより公表</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有・無)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職

役職指定で構成員が決まっているため名簿の作成はおこなっていない。

- 一 ○病院長 (委員長)
- 二 管理運営組織の長
- 三 主任診療科長
- 四 診療科長
- 五 診療施設の長
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 診療支援技術部長
- 九 臨床研修支援部長
- 十 事務部長
- 十一 その他病院長が必要と認めたる者

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
鳥取大学ホームページにより公表
- ・ 規程の主な内容
病院長は、病院に関する業務を掌理する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 【職名】副病院長 【役割】総務担当
 - ・ 【職名】副病院長 【役割】業務改善・経営担当
 - ・ 【職名】副病院長 【役割】働き方改革・職員研修・職場環境担当
 - ・ 【職名】副病院長 【役割】医療の質管理担当
 - ・ 【職名】病院長特別補佐 【役割】倫理・ダイバーシティ推進担当
 - ・ 【職名】病院長特別補佐 【役割】患者サービス担当
 - ・ 【職名】病院長特別補佐 【役割】地域連携・医療のエコ活動担当
 - ・ 【職名】病院長特別補佐 【役割】医療安全・教育担当
 - ・ 【職名】病院長特別補佐 【役割】経営分析・経営改善担当
 - ・ 【職名】病院長特別補佐 【役割】病院再整備担当
 - ・ 【職名】病院長特別補佐 【役割】広報担当
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院のマネジメントを円滑に遂行するために複数の副病院長、病院長特別補佐を置き業務分担を行っている。国立大学病院長会議が企画する【病院長塾】へ病院執行部等が例年参加し人材育成を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査 ・ 病院の医療安全に係る管理状況及び改善状況に関する審議 ・ 監査及び審議結果の学長及び病院長への報告 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院のホームページ及び大学のホームページにて公表 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
福田 誠司	椋山女学園大学看護学部教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者として適任であるため。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
熱田 雅夫	熱田・廣澤法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者として適任であるため。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
井上 俊之	NPO 法人岡山 SP 研究会 理事		医療を受ける者で、かつ医療従事者以外であり、医療安全管理についての知識を有する者として適任であるため。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
<ul style="list-style-type: none">・体制の整備状況及び活動内容 鳥取大学内部統制規則を整備するとともに、鳥取大学監査室による定期監査を行っている。 法人文書・個人情報の管理状況に関する監査、公的研究費等に関する監査を実施。 また病院の管理及び運営を行うための合議体である病院運営会議に監事が出席している。
<ul style="list-style-type: none">・ 専門部署の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 内部規程の整備の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 公表の方法 鳥取大学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 経営協議会を設置し、外部委員を含めた構成員により開催している。
<ul style="list-style-type: none">・ 会議体の実施状況 (年 3 回)・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) (年 3 回)・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：経営協議会

会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
(学内委員)			
原田 省	学長	○	有・無
景山 誠二	理事・副学長		有・無
坂口 裕樹	理事・副学長		有・無
恒川 篤史	理事・副学長		有・無
三木 達行	理事・副学長・事務局長		有・無
結城 豊弘	理事		有・無
熊埜御堂 朋子	理事		有・無
武中 篤	医学部附属病院長・副学長		有・無
(学外委員)			
入江 到	株式会社鳥取銀行 代表取締役頭取		有・無
占部 まり	宇沢国際学館 代表取締役		有・無
小林 朋道	公立大学法人公立鳥取環境大学 学長		有・無
中島 諒人	特定非営利活動法人鳥の劇場 代表理事		有・無
平井 伸治	鳥取県知事		有・無
船越 真樹	株式会社 I Dホールディングス 代表取締役社長 兼 グループ最高経営責任者		有・無
松本 典子	学校法人藤田学院鳥取短期大学 学長		有・無
吉村 泰典	慶應義塾大学 名誉教授		有・無
渡辺 憲	社会医療法人明和会医療福祉センター 渡辺 病院 理事長・院長		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 通報件数 (年 0 件) ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 周知の方法 ホームページで公表、院内ポケットマニュアルに記載、研修で周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>○ホームページ：随時更新</p> <p>○広報誌「とりだい病院ニュース」：年2回発行 当院の最新の取組みや医療情報を患者さんとはじめ地域の医療機関等へ発信している。</p> <p>○広報誌「カニジル」：年3回発行 医療や医療に携わる人にフォーカスを当てながら当院の新たな魅力を発信している。</p> <p>○外来担当医のご紹介：年1回発行 顔写真付きの外来担当医表。医療圏内の医療機関へ配布している。当院を身近に感じていただき、患者紹介時に活用いただく。</p> <p>○ケーブルテレビ：地元ケーブルテレビ局と提携し、医療番組を毎月放送。</p> <p>○メディカルセミナー（市民対象公開講座）：年3回開催 地域に出かけ当院医師らが最新治療や地域のニーズに合った話題を講演している。</p> <p>○公式SNS：随時発信 当院の日々の出来事や注目情報などをいち早く発信している。</p> <p>○カニジルラジオ 地元ラジオ局と提携。主に当院の職員が出演し医療や病院に関する話題を毎週放送している。</p> <p>○プレスリリース、記者発表 新たに実施した治療や取組みについて、報道機関に随時情報発信をしている。</p> <p>○記者懇談会：年2回開催 記者との関係構築や当院情報の発信推進を目的に開催している。</p> <p>○とりだい病院ミニ講座：毎月開催 当院の医師や医療スタッフが、テーマを決めて治療や健康かかわる講座を開催している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>低侵襲外科センターにおいて、外科系各診療科の壁を越えて疾患に対応することはもとより、低侵襲手術の技術向上と教育を行っている。</p> <p>また、脳とこころの医療センターにおいて、複数科にまたがる、あるいは複数科でみるべき疾患に対応しているほか、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病医療支援チーム、栄養サポートチーム、感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、転倒・転落予防チーム、生殖医療チーム、呼吸サポートチーム、ラピッドレスポンスシステム検討チーム、早期離床リハビリテーションチーム、認知症ケアサポートチーム、肝疾患サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチームなど、複数診療科が連携し組織横断的に対応を行う体制を整備している。</p>	